

つながる
ひろがる
校友コミュニケーション

桜縁

おうえん

No.
25

日本大学校友会
会報誌
2014.7

特集

日大スポーツ 勇者の記憶

伝説の舞台裏



自主創造
日本大学

みなとともに
100万人の仲間とともに

桜縁おうえん

日本大学校友会会報誌
2014.7 No.25

Contents

- 2 気仙沼だより
三陸新報社記者 守 竜太さん
- 4 NU Scope
運動部紹介 馬術部
サークル紹介 歯学部ラグビー部
キャンパスの人気者 宇野 加菜さん(薬学部)
留学生紹介 韓 麗芳さん(商学部)
- 10 特集
日大スポーツ勇者の記憶
～伝説の舞台裏
Part1 **1964 東京オリンピックの記憶**
【対談】最年少金メダル伝説
早田 卓次さん
多田羅 りかさん(フリーアナウンサー)
Part2 **1958 箱根駅伝完全優勝の記憶**
山の神伝説の誕生
馬場 孝さん
Part3 **1972 センバツ決勝の記憶**
伝説の兄弟校対決
高橋 将博さん
- 25 トップの肖像
タクシーの価値を高め、快適さを多くの人に
平和タクシー株式会社 西下 裕平社長
- 28 日大人 百花繚乱
三つの顔で郷土の魅力発信
最上峡観光開発株式会社 社長 芳賀 由也さん
ミュージカル劇団を率いて地方を元気に
南海放送報道制作局 チーフマネージャー・アナウンサー 戒田 節子さん
- 32 趣味悠々
フラワーアレンジメント 渡邊 香代子さん
- 33 旅、今宵のお宿
福島県郡山市 ホテル華の湯
- 37 わが町の先生
山口県長門市 教諭 朝岡 輝喜先生



- 38 フロントランナー
私学出身では3人目の空自司令官
航空自衛隊西部航空方面隊司令官・空将 宮川 正さん
- 42 いいもの美味いもの紀行
神奈川県横浜市 株式会社鎌倉ハム村井商会の
「ハム」
- 44 ふるさと礼讃
高知県高知市 よさこい祭り
ふるさと案内人 竹内 康雄さん
- 46 夢に向かって
埼玉西武ライオンズ 投手 十亀 剣さん
- 47 首長に聞く
子育て環境日本一のまちづくり
茨城県龍ケ崎市 中山 一生市長
- 50 「山田顕義と近代日本」展が萩博物館で開催
先輩にインタビュー
- 51 **アナウンサーの仕事**
朝日放送 喜多 ゆかりさん
インタビュー 文理学部 榊原 詩衣奈さん
上越ケーブルビジョン 鶴見 幸恵さん
長野朝日放送 富岡 美希さん
青森テレビ 駒井 亜由美さん

- 59 書籍紹介
- 60 支部・部会紹介 京都支部/沖縄支部
- 62 校友会ニュース
- 64 お知らせ・掲示板



抽選で総勢39名さまにプレゼント!
詳しくはP64をご覧ください。

表紙イラスト
特集に登場いただいた早田卓次さん、馬場孝さん、高橋将博さんの若き日の雄姿

「桜縁」の由来

「桜」は日本大学の校章にもあしらわれた花です。この桜(日本大学)を媒介として大学、校友、在学生のそれぞれが新しい「縁」を結び、互いに助け合い、協力し合いながら発展していくためのコミュニケーション誌という思いを込めて『桜縁(おうえん)』と名付けました。また、校友の方には母校の活動と後輩を、在学生の方は仲間同士で“おうえん(応援)”“しましよう”という心も託しています。

文と写真
もりりゅうた
守竜太さん
三陸新報社記者
平成15年文理学部社会学科卒業

復興とはどれほど 難しいものなのか

東日本大震災から3年の月日が流れた。生鮮カツオの水揚げで昨年まで17年連続日本一を記録している気仙沼港は、ようやく今年の水揚げが本格化し、にぎわい始めている。震災で一変した風景を少しずつ取り戻しながら、被災地はあれから3度目の夏を迎えた。

一部で震災前の姿を取り戻す一方で、全体的な復興はなかなか進まない。特に今、気仙沼市が水産業など産業の再生とともに課題にあげるのが、住宅の再建だ。

気仙沼市では、隣接する岩手県一関市を含め、いまだ約1万人の被災者がプレハブ仮設住宅、あるいは民間アパートを借り上げたいわゆる「みなし仮設」で生活する。3年を過ぎても、暮らしの基本となる住宅の確保すらままならない。多くの人が、ようやく本

格化した復興事業での住宅再建を望み、待ち続ける。

その一つは、津波の危険がない高台を造成し、集団で移り住む防災集団移転促進事業。市内では38地区が進められ、現時点で966戸分の宅地を造成する予定だ。

事業スケジュールに対する進捗は順調だが、主に山林を新たに切り開いて宅地にするため時間がかかる。これまで造成が完了し、家を建てられるようになったのは1地区のみで、残りはこれから。最も遅い地区では平成30年3月の引き渡しを予定する。

ようやく着工を迎えたある地区では5月、住民たちが安全祈願祭を開いた。完了予定は平成28年3月。住民代表は言う。「あと2年近く待つ間も、集団移転をする住民同士の気持ちをつなぎ止めておくという思いを込めた」

もう一つの住宅確保策となる災害公営住宅（復興住宅）事業では市内で約2200戸の整備を計画。今のところ完成はゼロだが、約4割の900戸で2カ月から1年3カ月完成がずれ込む見通しが示された。説明会に参加したある住民からは「何とか待つしかない」とため息が漏れる。

復興とはこれほど難しいものなのか。東日本大震災から3年以上が過ぎた今、被災地で暮らす人たちが多く感じる気持ちだろう。見えない先行きに、もしかしたらこう感じる方が強いかもしれない。「復興とはどれほど難しいものなのか」

安全祈願する住民。奥の山林が宅地となる



防災集団移転事業



南気仙沼地区では大規模な土地区画整理が進む



サークル紹介

NU Scope

歯学部ラグビー部

昭和35年創部。ふだんの練習は水曜・金曜18:30~20:30、日曜10:00~12:30に松戸にある歯科体育施設グラウンドで。また火曜の夕方に御茶ノ水キャンパスで筋トレとミーティングを行っている。部員は1年生5名、2年生4名、3年生1名、4年生4名、5年生3名、6年生4名の合計21名(マネージャー10名含む)が所属。



歯学部歯学科5年
主将 得居 信彦さん

「ラグビーはどのスポーツよりもアドレナリンが出るのを感じられる競技。闘志を前面に出せるのが魅力です」



全国の歯学部運動部が参加する全日本歯科学生体育大会(通称デンタル)。そのラグビー・フットボール部門で昨年見事3連覇を達成。メンバーは15人制にやっとなつたものの、ケガ人も出た苦境の中での優勝だった。また関東医歯薬リーグでは、1部昇格こそ逃したものの2部リーグ2位の成績を残した。

創部から今年で55年目を迎え、伝統と歴史を誇る歯学部ラグビー部だが、部員のほとんどは大学に入ってからラグビーを始めているという。

「僕も高校時代はサッカーをやっていた。最初はタックルなんて痛そうだし怖かったですよ。でも一度試合をやってみたら、意外とすんなりできるようになってきました」と主将を務める得居信彦さん。初心者が多いことを理由に、練習内容をラクにしようという考えはない。

「後輩たちには厳しくやっていく中でラグビーを好きになってもらいたいし、上達する楽しさを感じてほしいですね」

ボールと人がたくさん動くラグビーがチームの持ち味。そのため、「どこのチームより走っている自信があるし、技術練習にしても手を抜かずに頑張っている自信があります」

今年のチームスローガンは「OVER」。どんなことにも全力でぶつかって乗り越えていこうという意味を込めたものだ。

部員は現在マネージャーを除くと11名。それでも15人制にこだわり、目標である1部リーグ昇格、デンタル4連覇に向けて、厳しい練習と部員の確保に余念がない。

仲間とともに厳しい練習を乗り越え 勝利と達成感を味わう



歯学部ラグビー部

運動部紹介



恵まれた環境のもと 人馬一体となって勝利を目指す

馬術部

大正13年創部。昭和39年に東京都世田谷区下高井戸から現在の神奈川県藤沢市六会に練習場・合宿所を移転。全日本学生馬術大会三種目総合優勝20回を数えるほか、平成15年には団体優勝回数も300を超え、学生馬術界のトップを走る。またオリンピック選手6名を輩出。平成26年度は30名の部員と32頭の馬が在籍し、恵まれた環境のもと練習に励んでいる。



諸岡 慶監督

昭和54年農獣医学部(現生物資源科学部) 拓殖学科卒業



馬術部の朝は早い。夏場になると部員たちは午前3時に起床というから驚きだ。馬の息つかいやリズムミカルな足音が馬場に響くなか、朝日を浴びての練習が続く。

「うちの強みは、馬、施設、コーチ陣が日本一」という諸岡慶監督の言葉どおり、部員数とほぼ同じ32頭の馬は練習馬と競技に出るレギュラー馬に分かれており、施設面でも空調が完備された厩舎や屋根付きの丸馬場も新設されたばかり。

また、オリンピックおよびアジア大会出場や監督経験を持つコーチングスタッフがつらつらおり、選手の育成には自信を持っている。

「ジュニア時代は無名でも、基本がしっかりしていて伸びしろのある選手を勧誘して育てるというケースが多いですね。そういう選手を見つけるには、全国にいるOBのネットワークによるところが大きいです」

今年卒業した柿澤小夜子選手もそのうちの一人。1、2年時は目立った活躍はなかったものの、上級生になると一気に開花。全日本学生馬術女子選手権と、男女混合の全日本学生馬術選手権の両方の大会で優勝。その影響で、女子選手はどちらか一方の大会にしか出場できないというルールに変更されたのだ。

馬術では乗り手や馬の力量ばかりでなく、相性も大事である。「人馬一体」となるべく馬の個性を見極め、乗りこなすことが求められる。例年6月の関東学生馬術大会までには選手と馬をマッチさせ、秋の全日本学生馬術大会での総合優勝を目指す。

年末年始も交代で一年365日馬の世話、そんな厳しさを乗り越えて、部員たちは大きく成長していく。



留学生紹介

NU Scope



カンレイホウ
韓麗芳さん
商学部経営学科 4年

やる気を引き出す 日本の人材管理術を学び 母国に還元したい



社会人になって休暇が取れたら、ぜひ北海道と沖縄に行ってみたいと話す韓さん。日本の美しい風景を写真に撮ってSNSにアップすると中国の友人にも好評だという。

中国で高校卒業後、しばらく日系企業の工場でアルバイトをしていたときに従業員たちの高いモチベーションや日本式経営に接したことがきっかけで、どうしても日本で学びたいと両親を説得した韓麗芳さん。

子どものころから見ていた日本のアニメの影響で、日本には好印象を抱いていたという。

「七ひまるちゃん、ドラえもん、名探偵コナンなど、ストーリーはもちろん、そこに描かれていた日本の文化に興味がありました」

来日後2年間日本語学校で学んだのち、本学商学部に入學。日本大学という名前にまず魅力を感じたこと、就職率の良さや出身者の社長数がトップという事実が選択の決め手だった。

当初の目的どおり、経営学の中でも人的資源管理を専門に学んできた。4年生となった今、すでに住宅関連の日本企業から内定を得ている。

「夏休みに研修があるので、参加するのが楽しみです。人材育成に力を入れている会社なので、実践的な部分を吸収したいですね」

経済的な理由からずっとアルバイトをしなくてはならず、サークル活動には参加できないなど、残念な思いもした。

「何かを失うことは別の何かを得ることになるという思いでがんばってきました。アルバイトは日本語の習得にも役立ちましたし、老人ホームのヘルパーとして働いたときは、高齢者の方との交流を通じて、日本人の優しさを身をもって感じることができました」

数年後には中国進出の計画もあるという企業の中で成長し、中国の人材教育にも影響を与えられるようになりたいと韓さん。プライベートでも、両国のいいところを双方の知人や友人に伝えるなどして、日中の関係が少しでもいい方向に向かってほしいという思いでいっぱいだ。

キャンパスの人気者

宇野 加菜さん
薬学部薬学科 4年

学部祭の運営でつかんだ自信 理想の薬剤師像に大きく前進



今はまだ薬剤師の卵というより患者さんに近い立場、その気持ちを忘れず成長していきたいと語る宇野さん

自ら「働きたがり屋」という宇野加菜さん。昨年11月3日・4日に開催された薬学部の学部祭「第25回桜葉祭」で、実行委員会総務局長を務めた。

「総務の仕事はいわば裏方。参加団体から申請された資材や器材などを発注したり、保健所との折衝など、全体の運営を支える部署でした」

引き受けた仕事をただひたすらこなしただけと謙遜するが、それでも成功のうちに「桜葉祭」を終えたとき、周りのメンバーから感謝とねぎらいの言葉をかけてもらい、大きな満足感と達成感を味わえたという。

「役員の仕事を通じて、たとえ相性が悪い人であっても逃げないで接

することができるようになりました。そこは成長できた部分ですね。人との接し方を学べたことは、将来薬剤師となってもきっと役に立つと思っています」

入学前は薬の勉強をするだけだと思っていたが、患者さんとの関わりはもちろん、チーム医療の一員として、薬剤師にはコミュニケーション力が重要だということを感じたという。

現在は日本薬学生連盟に加盟のサークル「SNU」に所属し、薬剤師になるにあたっての意識を高めるべく、年4〜5回ほどのワークショップや、他大学の薬学生との交流などを通じて、理想の薬剤師像に近づこうと励んでいる。

特集

日大スポーツ 勇者の記憶

伝説の舞台裏

日本大学が輩出したオリンピック選手は、これまでに延べ400人を超えるなど、数々の栄光に輝いてきた日大スポーツ。その歩みは日本のスポーツの歴史に新しい一ページを開き多くの伝説を生んできた。「フジヤマノトビウオ」と呼ばれ、戦後日本復興の象徴となった競泳の古橋廣之進さん。高度成長期の勢いそのままに「体操ニッポン」を支えた早田卓次さんをはじめとした名選手たち。不死鳥の名にふさわしく無敵を誇ったアメリカンフットボール部「フェニックス」などなど、その伝説は枚挙に暇がない。

「勇者の記憶」があるのではないだろうか。きつと読者の皆さんにもあの選手、あの名勝負が思い起こされる。

本号の特集は「日大スポーツ 勇者の記憶〜伝説の舞台裏」と題して、東京オリンピック、箱根駅伝、選抜高校野球で活躍し、伝説を残した3人の方にその勝利と名勝負の舞台裏の物語をうかがった。

1964

PART.1

東京オリンピックの記憶

[対談] 早田卓次さん×多田羅りかさん

1958

PART.2

箱根駅伝・完全優勝の記憶

馬場孝さん

1972

PART.3

センバツ決勝の記憶

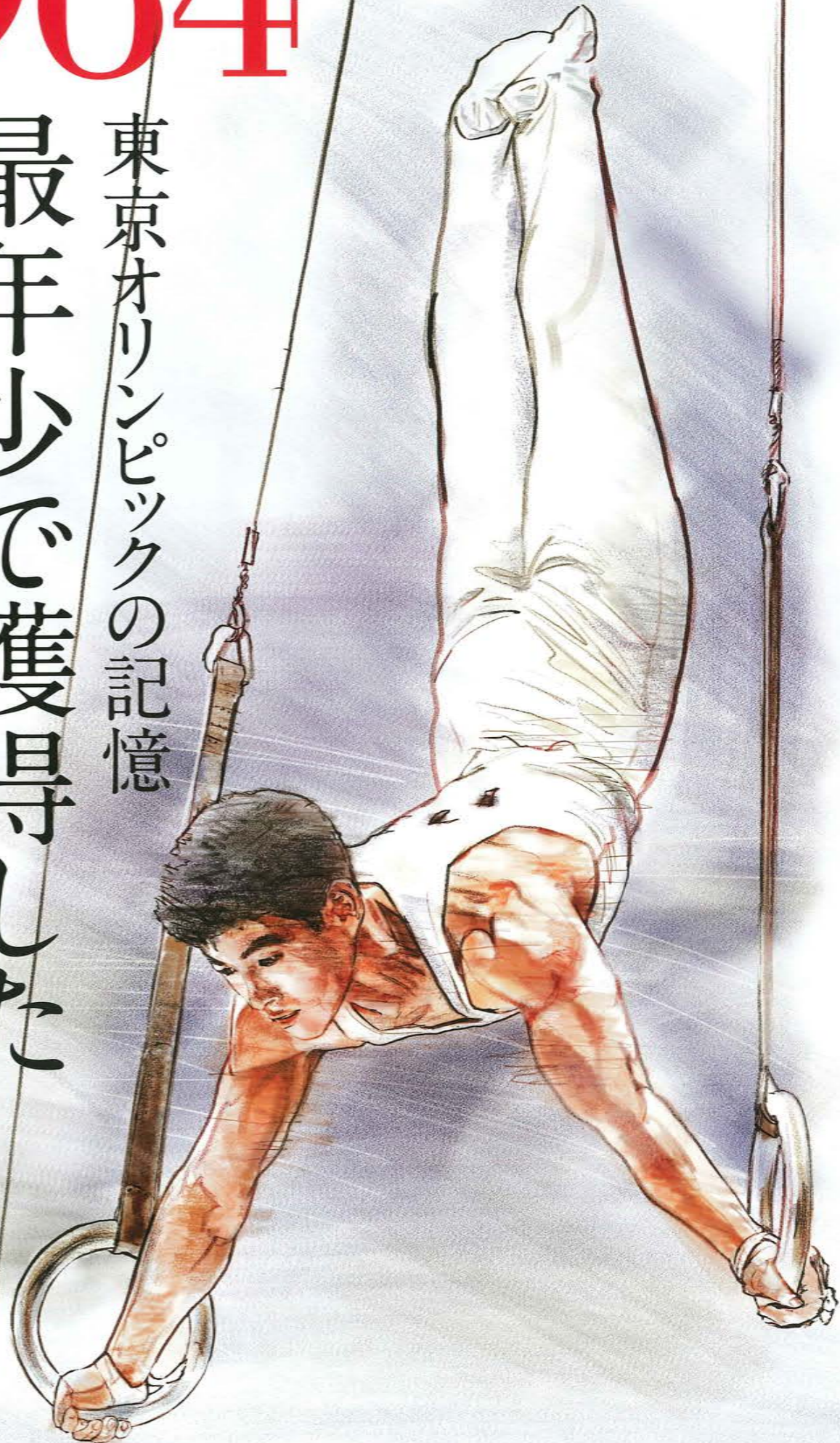
高橋将博さん

1964

東京オリンピックの記憶

最年少で獲得した

金メダル伝説



今年、開催から50周年を迎えた東京オリンピック（昭和39年）。当時、文理学部で体育助手を務めていた早田卓次さんは、最年少で男子体操チームに参加。つり輪で金メダルを獲得した。6年後に開催される2020東京オリンピックを見すえながら、スポーツキャスターとして活躍する多田羅りかさんとも、当時をふり返ってもらった。

日本大学名誉教授

早田卓次さん

フリーアナウンサー・雑穀料理研究家

昭和38年文理学部体育学科卒業

多田羅りかさん

平成18年経済学部産業経営学科卒業

◆プロフィール
早田卓次(はやた・たくじ)
昭和15年和歌山県生まれ。本学4年次にインカレで個人総合優勝。続くユニバーシアード・ブラジル大会で3位に入賞。卒業の翌年、東京オリンピック代表に。昭和43(1968)年のメキシコオリンピックには補欠として出場。平成元(1989)年、文理学部教授に就任。日本オリンピック協会理事長などを歴任。日本オリンピック委員会評議員などを務めている。



無名かつ最年少の不安を猛練習で乗り越ええる

多田羅 ● まずは日本代表に選ばれた時のお気持ちから聞かせてください。

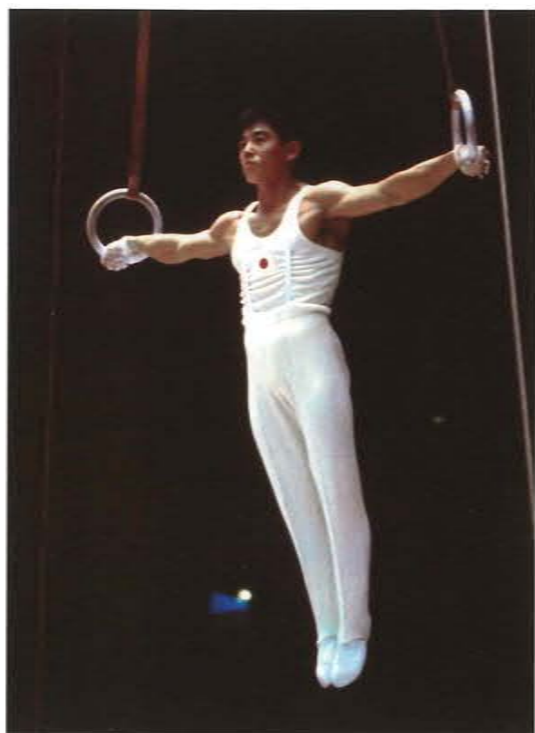
早田 ● うれしい反面、正直「やるかな」という不安も感じました。なにしろ、代表6名のうち、4名は前回大会から連続出場する選手。そこに跳馬の「山下跳び」で有名な山下選手と、無名かつ最年少の私です。有名選手

ばかりのチームで、迷惑をかけずに役割が果たせるかなと。多田羅 ● その不安はどのように解消されたんですか？
早田 ● それはもう練習あるのみですよ。朝起きると、ロシア語で「ザリアツカ（充電トレーニング）」という、一日に必要な刺激を身体に呼び起こす運動を1時間。次に本トレーニングを3時間、その後筋力トレーニングをしていました。当時はコーチと呼べる人がいなかった時代ですので、自分で



PART:1
日大スポーツ
勇者の記憶
伝説の舞台裏

現在とまったく違った
厳しい練習環境



金メダルに輝いたつり輪の演技(早田さん提供)

多田羅 ● 競技生活で特にご苦労されたのはどんなことでしょうか。

早田 ● やはりケガですね。大学1年の時にアキレス腱を断裂して、復帰までに約6カ月かかりました。ただ、ケガをしたことで練習への渴望感が生まれましたし、復帰後の集中力も格段に変わりました。4年生の時にも膝を骨折するなどしましたが、私にとっでは文字通り「ケガの功名」だったと思います。

多田羅 ● 本当に過酷なスポーツですね。

早田 ● 当時は体操器具も未発達でしたからね。それに、まだ食べ物にも困る時代だったんです。特に学生時代は経済的に余裕がなくて、やっと練習していました。試合が近づくと、学校の保健室でビタミン剤を注射して栄養補給をしたこともありましたよ。そんなことから、合宿があるとうれしくてね。

多田羅 ● 食事つきだからですね(笑)。

早田 ● そうそう。そういうのは、オリンピック選手に決まった時に、協会から強化資金をもらったんです。その名目も「特別栄養費」でした。まあ、ほとんどはアルコールに消えたんですけど(笑)。



◆プロフィール

多田羅 りか(たたら・りか)

昭和57年香川県生まれ。本学卒業後、フリーアナウンサーに。多数のテレビ・ラジオ番組に出演し、特にスポーツ分野で活躍。在学時から通い始めたプロ野球観戦が趣味。野菜・雑穀ソムリエの資格を有するなど、料理研究者としても有名で、料理教室も開催している。「圭三プロダクション」所属。



体操競技の会場となった東京都体育館(東京・千駄ヶ谷)の前で

メニューを組み立てて。8ミリカメラを持ち歩くなど、かなり工夫もしましたね。

多田羅 ● 8ミリカメラですか？

早田 ● ええ、フォームをチェックしたりするためにね。当時はかなり高価なものでしたが、編集機も映写機も購入して、食べるのを我慢してでもこれらの機械は持っているといふと、一流選手とはいえないかと思っていました。

多田羅 ● そういう猛練習や工夫の結果につながったわけですね。

早田 ● そうですね。本番でつり輪を握ったら、あとはもう機械的に体が動いて。観衆の声援もよく聞こえて、会場の空気感をつかみながら、リズムに乗って演技できました。体操は採点競技ですから、十字懸垂などの静止技が決まって会場全体に拍手が起きたりすると、審判への大きなアピールになるんです。

多田羅 ● 日の丸を背負っている重圧や緊張はなかったんですか？

早田 ● ほとんどなかったですね。当時はメディアも発達していませんから、注目されていたのはスター選手の遠藤幸雄さんくらい。その点、私は気楽だったんです。それに練習でやるべきことは全部やっ

てきたので、失敗はまったく考えなかった。冷静に「身体も軽いので大丈夫だ」と思っていました。

多田羅 ● 金メダルが決まった時のお気持ちはいかがでしたか？

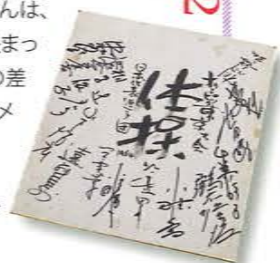
早田 ● うれしいというよりは、肩の荷が下りた、ホッとしたというのが率直な気持ちでした。また、本番の直前に父を失くしていただけに、親孝行ができてよかったと思いました。支援してくださった地元の人や、日大の皆さんにやっと思返しができたという満足感もありましたね。

軌跡 1964.10.22

東京オリンピック・男子体操の代表は、小野喬、遠藤幸雄、鶴見修治、山下治広、早田卓次、三栗崇の6選手。日本の体操はレベルが高く、常にソ連とトップを競っていた。前回のローマ大会でも団体総合で金メダルに輝いており、国民の期待は非常に高かった。それに応え、団体総合は連覇。個人総合でも遠藤選手が金メダルに輝くなど、チームは勢いにのって種目別に進んだ。結果、跳馬は山下選手、平行棒は遠藤選手が金メダルを獲得。

ゆか運動、あん馬はともに金メダルを逃し、最後につり輪が行われ、大本命の遠藤選手が着地で両手をつくまさかの失敗。チーム最年少の早田さんに日本の期待が集まった。「人から注目されるとなぜか燃える性格」という早田さんは、十字懸垂、上水平を見事に決め、着地もびたりと決まって9.750の高得点をマーク。2位のメリケリに0.05の差をつけ優勝した。これにより、男子体操は5個の金メダルを獲得した。

日本体操チームの寄せ書き



PART:1
日大スポーツ
勇者の記憶
伝説の舞台裏

多田羅りかさんより
日大の大先輩、しかも東京オリンピックの金メダリストにお話をうかがうということで、じつはちょっと緊張していました。でも、とても気さくな楽しい方で、あつという間に時間が過ぎました。「若い頃はものすごい人見知りで、人とうまく話せなかった」と言われてましたけど(笑)。

一番驚いたのは、選手の扱われ方の違いですね。私にはトップアスリートの友人がいますが、コーチやトレーナーなどに囲まれて、食事、体調、メダルなどあらゆる面で手厚いサポートを受けています。早田さんは当時

●オリンピック体操競技・日本大学出身メダリスト

早田 卓次	1964 東京	団体・金	つり輪・金
五十嵐 久人	1976 モントリオール	団体・金	
梶山 広司	1976 モントリオール	団体・金	跳馬・銅
山脇 恭二	1984 ロサンゼルス	団体・銅	
平田 倫敏	1984 ロサンゼルス	団体・銅	
水島 宏一	1988 ソウル	団体・銅	
佐藤 寿治	1988 ソウル	団体・銅	
	1992 パルセロナ	団体・銅	
西川 大輔	1988 ソウル	団体・銅	
	1992 パルセロナ	団体・銅	
知念 孝	1992 パルセロナ	団体・銅	
松永 政行	1992 パルセロナ	団体・銅	平行棒・銅
田中 和仁	2012 ロンドン	団体・銀	

ねてくださったのは日大の監督だ
けでした。その熱心に心を打た
れ、進学を決めました。日大はま
だ新興勢力で、全国から強い選
手を集めていた時期です。私は
体操部の4期生にあたりますが、
3年連続でインターハイの優勝者
がいるなど選手層が厚く、めきめ
き頭角を現していききました。

多田羅りかさんより
日大を選ばれてよかったですね。

早田卓次さんより
もちろんです。練習環境
が整っていたのはもちろん、ちよ
うど遠藤選手が助手として日大に
こられた年で、一緒にオリンピック
を目指したのは本当に励みになり

ました。また、私も大学3年から
は学生職員、卒業後には体育助
手として採用してもらい、生活を
心配することなく体操に打ちこ
めました。それが何よりもありが
たかったですね。

多田羅りかさんより
2020年の東京オリ
ンピックに向けて、日大にはもっ
と頑張ってもらいたいですね。

早田卓次さんより
その通りです。当時、日
大関係の選手・役員はなんと52
名。しかも、体操4個、レスリング
1個と、計5個の金メダルが日大
関係者です。今後、高い可能性
をひめた選手は必ず出てきます
ので、全学をあげてその発掘・育
成に努めてほしい。また、支援者

対談を終えて



東京オリンピックの長編記録映画「東京オリンピック」のDVDおよび多田羅りかさんプロデュース「雑穀ブレンド(美肌・デトックス・もちもち)」の3点セットを抽選でそれぞれ3名さまにプレゼント。詳しくはP64をご覧ください。

と、自分ですべてを管理してきたから、この自信もあったのだと思います。
ご実家のお手伝いを通じて、体操選手としての素養が培われたというのもお話でした。生活の一部になっている作業や動作で体が鍛えられるって、あえてトレーニングをするよりもナチュラルで、理想的だと思いました。子どもたちがこのようにスポーツの基礎力を磨けるといいですね。

がいてこそ選手は結果を残せるのですから、誰もがオリンピックの参加者です。世代をこえ、オール日大で盛り上げていきましょう。



①当時の体操チームが着用したジャージ
②早田さんがオリンピックで実際に使用した革製のプロテクター。現在とは比べものにならない簡単なものだった
③金メダル。当時の団体優勝はチームに一つだけしか金メダルが提供されなかった。これは早田さんがつり輪で獲得したもの
④公式のプレザーは立派な木製衣装ケースで選手に提供された



一回の試合での負担はとても大きかったんです。現在は特定の種目に抜き添えたスペシャリストの競技になり、美しさよりも、スピードや技を競う時代です。

多田羅りかさんより
最近はずいぶん技がたくさんありますよ。

早田卓次さんより
難度の高い演技が可能になったのは、器具の発達が大きいですね。たとえば、鉄棒で回転する時は約7Gの負荷が体にかかります。私たちの時代はいわば腕二本の力でそれを支えていたため、常にケガと背中合わせでした。一方、現在は手にはめるプロテクターの一部を鉄棒にひっかけて回るような仕組みになっており、とても安全です。こうした器具の発展、トレーニングやケア技術の進歩などにより、高度な技が生まれているんです。

スポーツに強い日大を6年後も見せてほしい

多田羅りかさんより
体操を始められたきっかけを教えてください。

早田卓次さんより
中学生の時、メルボルン大会で活躍した小野喬選手の鉄棒の演技を見たのが直接のきっかけですね。ただ、物心ついた頃には逆立ちで歩いていました(笑)。それに実家が漁師だったので、子どもの頃から櫓をこいだり、網を引いたりしていたんです。それで体操に必要な筋力が鍛えられたんでしょう。

多田羅りかさんより
日大に入学されたのはどうしてですか？

早田卓次さんより
高3の時に出場した国体で、たまたま個人2位になったんです。それで多くの大学から勧誘されたんですが、実家まで訪

東京オリンピック1964から2020へ

昭和39(1964)年の東京オリンピックは、10月10日~24日に開催された。夏季オリンピックとしては第18回となり、初のアジア地域開催だった。また、植民地支配から独立したアジアやアフリカ諸国による初出場が相つぎ、出場国数は過去最高の93となった。実施されたのは20競技163種目。人気の高かった体操、レスリングで10個の金メダルを獲得したほか、「東洋の魔女」と呼ばれた女子バレーボールも圧倒的な強さで優勝。男子マラソンでは伏兵だった円谷幸吉選手が銅メダルに輝いた(金メダルはアベベ選手)。また、柔道が正式種目となり、猪熊功選手ら3人が金メダルを獲得した。日本のメダル数は29個(うち16個が金メダル)で、アメリカ、ソ連に続く好成績を収めた。

オリンピック開催にあたっては、競技施設はもとより、交通網や宿泊施設などの整備も進んだ。東海道新幹線と東京モノレールが開催直前に開業。首都高速も拡張されたほか、ホテルニューオータニ、ホテルオークラなどもオリンピック開催にあわせて開業し、東京の景観は近代都市のそれに大きく変貌した。

2020年の東京オリンピックは第32回となり、28競技の実施が決定している。選手村を会場の中心に設置して約9割の競技会場を8キロ圏内に配置するなど、移動時間の短縮が可能なコンパクトな計画となっている。すでにメイン会場となる国立競技場の改築が開始されるなど、準備が進んでいる。

1964-2020

1958

第34回 箱根駅伝 完全優勝の記憶

山の神伝説の誕生



箱根駅伝5区。小田原中継所から往路ゴールまで、高低差864メートルを疾走する「山上」は前半最大の見せ場だ。近年は圧倒的な走りを見せる選手を「山の神」と呼ぶが、56年前、元祖山の神が日大にいた。当時、長距離では並ぶ者のなかった馬場孝さん。第34回箱根駅伝(昭和33年)を完全優勝に導いたレースの舞台裏と、強さの秘密をつかかった。

厳寒をもともせず
圧倒的な走りを展開

◆プロフィール
馬場 孝(ばば・たかし)
昭和13年神奈川県生まれ。本学卒業後は明治製菓(株)に就職。コーチ兼選手として実業団駅伝などに出場した。平成11~14年には日大の長距離監督を務め、箱根駅伝を指揮した。陸上競技の功労者として秩父宮章などの受章多数。弟の和秋さんも日大出身で、箱根駅伝第41回大会の優勝メンバー。



1時間26分30秒。馬場孝さんは、1年生にもかかわらず驚異的な速さで箱根駅伝5区、25.2キロ(当時)を駆け抜けた。先輩の田中茂樹選手が作った区間記録を1分47秒も縮める区間新。小田原で2位の中央大学とは6分45秒差だったが、往路ゴールでは13分8秒にまで広げる圧倒的な走りだった。

「当日は朝から雨。箱根山中はみぞれ混じりで風が強く最悪でした。気温マイナス2度、あの寒さにはまいました。特に寒さ対策として真綿を縫いつけたランニングシャツを下に着用し、その上から長袖のアンダーシャツを着てレースに臨みました」

異次元の走りで箱根連覇を牽引

馬場 孝さん

昭和36年商学部商業学科卒業

当時の山上りは伴走者の併走が許されており、森本一徳監督は宮の下からOB選手を馬場さんにつけた。ところが、あまりの速さについて行けず、「1キロも走りぬうちにジブ(監督車)に戻ってしまった」と、当時の新聞は伝えている。また、ゴール後も元気一杯の馬場さんを見て「とても『天下の嶮』を走り抜いたとは思えない」と讚えている。



冷たい雨の中、トップで箱根路を力走する馬場さん

PART:2
日大スポーツ
勇者の記憶
伝説の舞台裏

自らの工夫で鍛えた
山の上りの基礎力

「たしかに調子はよかったですね。走行中は監督車からペースなどの指示があるんですが、わりと自分の判断を優先して飛ばしていききました。でも、山を登り切つて下りに入ったら、あまりの寒さで足が棒のようになってね。あれにはまいました(笑)」

陸上を始めたのは高校から。体が小さかったため、当初は陸上部への入部を認めてもらえなかった。それでも、毎日通つてランニングを続け、顧問を根負けさせた。その後、めきめきと頭角を現し、高3の時には5千メートルで東京都高校新記録を樹立した。

家計を助けるため、高卒後は松屋百貨店に就職。同社の陸上部員としても活躍し、青森・東京間駅伝の東京都代表として優勝に貢献したほか、20キロロードレースを日本最高記録で優勝した。

「その走りを、森本監督が見てくださいました。私のフォームをみて山の上り向きと思われたようです。熱心にお誘いいただき、1年で会社を辞めて日大に入学

しました」

馬場さんは重心を低くし、上動のないスムーズなピッチ走法で走る。そのフォームは、高校時代の自主トレで鍛えられた。

「実家が相模湖だから、高尾山と陣馬山が目の前なんです。山を走れば脚力や心肺機能の強化になりますし、当時の平地はまだじり道だったから、山の土道を走る方が足に負担がかりません。そこで、自宅から山頂までの往復コースを走るようにしたんです」

いわば、現在のクロスカントリー

軌跡 1957-1958

今年で90回を数えた箱根駅伝において、日本大学の出場は84回。そのうち、総合優勝は12回、中央大学(14回)、早稲田大学(13回)に続く好成績を収めている。また、連続優勝も4回と第3位。1957年、58年の連続優勝は1940年と43年(戦争で2年中止)の連覇以来だった。

1957年の第33回大会は、バランスのとれたチーム編成。区間1位は10名中2名しかいなかったものの、2位と3位が3名ずつと手堅い走りを見せた。結果、往路は優勝、復路は準優勝。総合記録は12時間14分04秒で、2位の中央大学に約9分差をつけ優勝した。

翌年の第34回大会は、日大の独壇場。10名中6名が区間1位という圧倒的な強さを見せ、往路、復路、総合の完全優勝。記録も12時間02分17秒と、前年を約12分も短縮。2位の中央大学とは約14分差でぶっちぎった。そのうち約6分半は馬場さんが広げた記録。いかに抜きん出た走りだったかがわかる。



「早くも連勝の色」と馬場さんから往路の力走に連覇の予想を報じる報知新聞(昭和33年1月)

●箱根駅伝 日本大学総合優勝の記録
日本大学の総合優勝は12回、そのうち9回が往路・復路1位の完全優勝。

第16回(昭和10年)	往路・復路1位/12.52.59
第17回(昭和11年)	往路・復路1位/12.54.22
第18回(昭和12年)	往路・復路1位/12.33.24
第19回(昭和13年)	往路・復路1位/12.40.13
第21回(昭和15年)	往路・復路1位/13.12.27
第22回(昭和18年)	往路2位・復路3位/13.45.05
第33回(昭和32年)	往路1位・復路2位/12.14.04
第34回(昭和33年)	往路・復路1位/12.02.17
第41回(昭和40年)	往路・復路1位/11.30.41
第43回(昭和42年)	往路・復路1位/11.24.32
第44回(昭和43年)	往路・復路1位/11.26.06
第50回(昭和49年)	往路・復路2位/11.46.02

※第90回(平成26年)大会で総合優勝の東洋大学のタイムは10.52.51
※第33、34回当時の10区間の距離は223.4km。第82回大会以降は217.9km

東京の国立競技場で開かれた第3回アジア競技大会(昭和33年)10,000メートルで馬場さんは金メダルを獲得。一躍陸上のホープとして専門誌の表紙を飾った



「でも、1年生の時に参加した1カ月半のヨーロッパ遠征で、海外選手との実力差を見せつけられてね。世界と戦うには、マラソンしかないと感じました。そこで、1960年のローマオリンピックに向け、マラソンの代表入り

箱根駅伝の経験生かし
マラソンへの挑戦を

を自ら考案し、いち早く練習に取り入れたわけだ。また、自転車チューブで筋トレをするなど、多彩な工夫で基礎力を養成。それが箱根を制する源となった。

箱根駅伝以外の活躍も、枚挙に暇がない。2年生で臨んだ第3回アジア大会最終選考会では、1万メートルを29分57秒8。日本人として初めて30分を切る日本新記録の快挙を成し遂げた。その後のアジア大会も大会新記録で優勝。もはや5千・1万メートルでは敵なしの状態だった。

を目指したんです」

しかし、好事魔多し。3年生の6月、練習中に踏み切りの枕木ですべて転倒し、右脚に右足を強打、右脚の大腿四頭筋を断裂する大けがを負う。1カ月半の入院で復帰したが、思うような走りはできなくなった。3年、4年の箱根駅伝は出場を断念。オリンピックも夢に終わった。

「もともと、卒業後も新しい職場で競技は続けていました。昭和40年の青森・東京間駅伝ではアンカーを任されて。当時、マラソンの第一人者だった中尾隆行選手と競りあったんですが、最後は1分以上の差をつけて勝ちました。今でも青春時代の思い出として心に残っています」

いま多くの大学選手は、箱根駅伝が終わると競技をやめてしまいます。大学を卒業して22、23歳、長距離選手としてはこれからが出发点です。ぜひマラソンに挑戦し世界を目指していただきたいと思えます。目標をもって努力したことは、これからの人生に必ずプラスになります。そして走ることにすばらしさを忘れないでほしいですね」



センバツ決勝の記憶 伝説の兄弟校対決 日大櫻丘 vs 日大三高



今から42年前、甲子園球場で開かれた第44回選抜高校野球大会（昭和47年）決勝を覚えているだろうか。大会史上初となった東京勢同士、しかも日大付属の兄弟校対決となった。ジャンボの愛称で親しまれた仲根投手を擁する日大櫻丘と、連覇を目指す日大三高で紫紺の優勝旗を争った大会だ。そのセンバツを日大櫻丘の一塁手で5番打者を務めた高橋将博さんとともに振り返る。

2回先頭打者で出塁 先制のホームイン！

この兄弟校対決が実現した昭和47年といえば、1月にグアム島で横井庄一さんが発見され、2月にはあさま山荘事件が起きた年。前年レコード大賞を受賞した尾崎紀世彦の「また逢う日まで」がこの大会の行進曲といえ、当時を懐かしく思い出す高校野球ファンも多いはずだ。
決勝は4月7日、雨のため1日順延となった大会10日目だった。この試合の先制点の口火を切っ

豪快打線をリードしたスラッガー

たのが高橋さん。2回先頭打者でセンター前ヒットを放つと、次の仲根選手が四球を選び、無死1、2塁のチャンス。ライトフライで1死のあと、レフトオーバーの2塁打で高橋さんがホームイン。その後日大櫻丘打線は4回、8回、9回と着々と加点していく。

高橋将博さん

昭和52年経済学部経済学科卒業

さらには193cmの長身と屈指の速球で注目を集めた仲根投手が日大三高打線を2安打に封じ、終わってみれば5対0のスコア。見事日大櫻丘が初出場初優勝を飾った。



選手一人ひとりに授与されたメダル



◆プロフィール
高橋 将博（たかはし・まさひろ）
昭和29年東京生まれ。日本大学櫻丘高等学校3年次に出場した第44回選抜高等学校野球大会の優勝メンバーで、続く第54回全国高等学校野球選手権大会にも出場を果たす。本学在学中はゴルフ部に所属。後輩には後にプロで活躍する倉本昌弘、牧野裕、湯原信光らがいた。卒業後家業のスポーツ店を受け継ぎ、現在は株式会社高橋運動具店代表取締役を務める。

「決勝は4打数2安打。個人的にはこの大会を通じて、3割7分くらい打ちましたね」

優勝を果たした日大櫻丘、さぞ練習環境にも恵まれていたのではないかと思います。現在文理学部の百周年記念館が建つ敷地にあった大学野球部のグラウンドを借りたり、当時調布市柴崎にあった日大三高のグラウンドで一緒に練習をしたりしていたという。

PART.3
日大スポーツ
勇者の記憶
伝説の舞台裏



トップの肖像

平和タクシー株式会社
代表取締役社長
西下 裕平さん 昭和47年文理学部社会学科卒業

タクシーの価値を高め 車社会の恩恵を 受けられない人々に 利便性と快適さを

新たなサービスにより タクシーの価値を高める

車両数190台、従業員数250名、岡山、倉敷を中心に西日本有数の規模を誇る平和タクシー。西下裕平さんは創業者の孫婿として同社に入り、平成5年に代表取締役社長に就任した。おりしも、バブル経済が終焉を迎え、タクシー需要が減少し始めた時期。難しい舵取りだったが、西下さんはタクシーの価値を高めるこ

とで、着実に業績を上げてきた。「正直に言って、タクシーは衰退産業。マイカーの普及に伴いタクシー需要はピーク時から4割も減少しています。しかし、いくら車社会が進んでも、その恩恵を受けられない交通弱者が必ずいます。そのような人々に快適さと利便性をお届けするのがタクシーの役割。新たな価値を、提供す

出先や観光地などでちょっとした移動に使うイメージが強いタクシー。しかし、地元では貴重な足として、重要な役割を担っている。西下裕平さんはその責務を果たすべく、新たなサービスを続々と開始。交通手段に悩む高齢者や過疎地域の住民などをサポートし、厚い信頼を寄せられている。

日大スポーツ 勇者の記憶 伝説の舞台裏



優勝校に与えられる紫紺の大優勝旗(レプリカ)とともに

監督が志した攻撃野球で “ジャンボ仲根”を援護

日大櫻丘はこの大会で2回戦から登場し、松江商業を6対0、準々決勝で高知商業を3対1、準決勝で東北高校を3対2のサヨナラで破り、順調に決勝まで勝ち上がる。

「準決勝のときは途中で雨が降ってきたので、すごい雨で。珍しく監督からバントの指示が出たりました」

日大櫻丘を率いた香椎瑞穂監督は、走者が出ればバントで確実に得点圏に進めるような高校野球のセオリーを破り、ヒットエンドランを多用する攻撃的な野球を志向。選手たちも監督の指示によく応え、仲根投手を打線で援護してきた。

一方の日大三高も、1回戦戸畑商業を16対0、2回戦専大北上を4対1、準々決勝で諫早高校を9対0、準決勝で銚子商業を5対3と破り、強力打線を武

器に駒を進めてきた。

「実績では日大三高は優勝経験もあり、野球の名門でした。それでも新チーム結成後は日大三高には2勝1敗。大会期間中チームの調子も良かったですし、勝てたのはやはり仲根君の存在が大きかったですね」

当時、日大櫻丘にはまだオリジナルの校歌がなく、大学の校歌を借用していた。

「甲子園で勝つとテレビを通じて『日に日に新たに』が流れるじゃないですか。全国の大学OBの方の愛校心をくすぐったのが、いろいろと宿舍に差し入れが届いたのを覚えています」

人生の礎となった センバツ優勝の経験

高橋さんは、家業がスポーツ店

だった影響で、小さいころから野球、スキー、ゴルフなどいろいろなスポーツに親しんだ。中学時代には野球で頭角を現し、中学3年の夏には勧誘を受けて日大櫻丘の練習を見学。

「そのとき、仲根君もいたんですよ。彼と一緒にやるなら、きっと甲子園に行けるだろうと直感

的に思いましたね」

香椎監督自らがこればと思う選手を集め、野球部強化に乗り出した一期生が高橋さんたちだったのだ。

「センバツ優勝は、自分にとって大きな自信になりましたね。父親も、息子が優勝したおかげでお得意さんが増えたと喜んでいました」

本学卒業後は地元府中市で家業を手伝いながら、硬式野球チームも立ち上げるなど、地域のスポーツ振興にも貢献。

「やはり甲子園に出たことで、いろいろな面でプラスになりましたね。地域の人も気軽に声を掛けられてもらったし、日大出身の方ともすぐに打ち解けられるんです」

高校野球に打ち込んだ輝きの時間、それはかけがえのない人生の礎となったに違いない。

1972.4.7 軌跡

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	R
日大櫻丘	0	1	0	1	0	0	0	2	1	5
日高三	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



優勝メンバーのサインが記されたボール



Yuhai Nishishita



小型ながら車椅子で乗車できる介護タクシー17台が稼働



本社オフィスで社員にも気さくに声をかける

れば、絶対にお役に立てる自信がありました」

平成13年に開始した介護タクシーは、まさしくこの言葉の実践だ。通常、タクシーが乗客を運ぶのは「ドア to ドア」だが、歩行が困難な要介護者にとっては不十分だ。そこで、車椅子のまま乗車できる車両を17台、ストレッチャーを乗せられる福祉タクシーを3台配備。要介護者を世話するには資格が必要のため、ドライバー50名以上に2級介護ヘルパーの資格を取得させ、「ベッド to ベッド」のサービスを実現した。

「現在力を入れているのは、乗合タクシーです。人口の減少が進んだ地域では、行政からの補助金などどうにか乗合バスを運行していますが、定期路線を廃止するバス会社も少なくありません。そこで、当社が地域住民のご要望にお応えし、必要なときに大型タクシーを運行します。すでに倉敷市と高梁市に導入しており、たいへんご好評をいただいています」

政治家の秘書として磨いた大局的な視点

生まれは倉敷市の造り酒屋だが、本学在校時にたまたま衆議院議員・中野四郎氏（愛知県）の手伝いをしたことで、卒業後は秘書に就任。以後約8年間、中野氏をサポートし続けた。

転機が訪れたのは昭和55年。奥様とお見合いをしたところ、ほとんど拍子で話が進み、同社の後継者となることに。本人も驚くばかりの早さで岡山に戻った。政治家の秘書から、タクシー会社の経営というまったくの別分野だったが、特に違和感は無かったという。

「地方都市のタクシー会社は、売上げの半分以上を固定客への配車で稼ぎます。ということは、当社を指名してくれるファンを増やすのが一番重要な仕事。政治家の秘書も、地元支持者を増やすことが大きな仕事ですから、根っこはさほど変わりがない。実際、秘書時代に培った考え方がとても役立ちました」

特に大きかったのは、些末なことに動揺しない「平気」の精神ですが、それが何よりもうれしい。そもそも周りに困っている人がいたら、自分も幸せになれませんかから」

だからこそ、「いける」と判断したことは逡巡せずに実行する。「まさしくサントリーの創業者鳥井信治郎さんの『やってみなはれ精神』ですよ。最初からガチガチに考えていたら、選択肢も狭まってしまう。失敗したらやり直すか、引き返せばいいだけの話。特に若い皆さんは、やることすべてが勉強になります。何でもやってみる勇気と実行力をもってほしいですね」



ノーベル賞受賞の物理学者・湯川秀樹氏揮毫の「平和」の書

と時流の読み方。目先の厳しさにとらわれるのではなく、潮目が変われば必ず勝機を見出せるという大局的な姿勢を保ちながら事業に取り組んできた。

「言い方は悪いんですが、タクシー会社は魚釣りと一緒に。魚のいない時間や場所にいくら釣り糸を垂らしても、釣れるわけがありません。大切なのは魚がやってくるときに備えて、用意周到に道具や技術を整えておくことなんです」

現在、岡山市は中心地の活性化が進んでいる。かつてマイカーを得て郊外に移動した世代が高

齢となり、利便性を求めて回帰しているからだ。高齢者向けマンションや、大規模小売店舗などが続々と建築されているが、利用者には要介護者も多い。まして病院の多くは郊外にあるため、足の

確保は不可欠だ。西下さんがいち早く介護タクシーを導入したり、固定客からの信頼獲得に奔走してきたのは、この流れを以前から読み切っていたためでもある。

人にも喜んでもらうため何でも「やってみる」

同社では、運転業務に関する仕事は何でも対応できる体制を整えている。各種施設や企業での送迎代行、病院内での運行管理担当者の派遣、企業が保有する自動車の整備など内容は多岐

にわたるが、全業務の起点となっているのは一つの思いだ。「とにかく人の役に立つことがやりたい。秘書時代から一貫している信念です。たまにお年寄りなどがお礼状を下さったりし



車体もドライバーの制服も黒。老舗としての揺るぎない誇りの証でもある



配車センターでは6名のオペレーターが岡山、倉敷エリアを管理する



岡山市内の本社社屋。ワゴンタイプの福祉タクシーの利用も多い



◆会社DATA
平和タクシー株式会社
設立 昭26年4月8日
本社 岡山県岡山市北区表町3丁目10-21-201
TEL 086-223-1919 / FAX 086-223-6167

資本金 6千万円
事業内容 自動車運送事業、介護事業、不動産業
ホームページ <http://www.heiwa-taxi.co.jp>

◆トップのプロフィール
西下裕平 (にしした・ゆうへい)
昭和24年岡山県生まれ。学生時代は詩吟部に所属。先代社長の従姉妹は湯川スミさんで、湯川家に婿入りしたのがノーベル賞受賞の湯川秀樹氏である。その縁で自社ビルに刻まれた「平和」の文字は秀樹氏の筆によるもの。趣味はゴルフ。モットーは「人生は楽しく、仕事は面白く、家庭は平和に！」



最上川舟下り義経ロマン観光
最上峡観光開発株式会社
代表取締役社長
芳賀 由也さん
昭和43年経済学部経済学科卒業

Y o s h i y a H a g a



経営者、船頭、小説家 三つの顔で郷土の魅力を発信

「五月雨を集めてはやし最上川」。松尾芭蕉の名句で知られる最上川は、山形県でも屈指の観光地だ。観光客のお目当てはやはり舟下りだが、芳賀由也さんはそれだけを目的としない観光のあり方を模索してきた。訪れる者のハートをつかむ多彩な仕掛けで、同地の魅力を高めている。

◆プロフィール
芳賀 由也 (はが よしや)
昭和21年山形県生まれ。本学卒業後、ロッテに入社。7年間勤めたのち、ラーメン店勤務を経て帰郷。30歳で現職に就いた。昭和61年には、関連会社の最上川特産を設立。いち早くくらんぼの通信販売を手がけ、成功を収める。日本旅行作家協会評議員。
最上峡観光開発株式会社
TEL: 0234-57-2148 ホームページ <http://www.mogamigawa.jp/>



小説の発表により 最上川をアピール

「ヨイイサノマカシヨ エンヤコラマカセ」。鍛え上げた喉の最上川舟唄が、遊覧船「義経丸」に響く。芳賀由也さんは舟下り観光会社の社長でありながら、自らが船頭として乗船し、約1時間の舟下りガイドを毎日4、5回こなしている。

「お客様の観光ニーズを知るには、現場に出るのが一番。それには、毎日違うお客様にガイドをしていると、受ける話、受けない話の判別がつかず。それが今度は、小説を書くときに役立つんですよ」

平成9年、芳賀さんは最上川を舞台にした小説「五月雨の頃」を上梓した。以後、源義経、松尾芭蕉など同地にゆかりの深い人物や史実をもとに、多数の作品を発表。舟下りという観光をもたせることで、飛躍的に観光客を増やしてきた。

「当社の対岸には、義経や芭蕉も立ち寄ったとされる仙人堂という縁結び神社があります。長く放置されたままでしたが、平成元年から一人で整備を進め、復活に導きました。しかし、当時はインターネットも何もありませんから、情報を発信できない。

そこでひらめいたのが小説の執筆だったんです」

この作戦が奏功し、芳賀さんの小説は兼高かおる氏らの運営する日本旅行作家協会の目にとまる。内容に感銘を受けた兼高氏ら著名な作家が多数同地を訪れ、しだいに仙人堂の名前は全国に広がっていった。

物語の力を活かし 地域に貢献する

芳賀さんが会社を設立したのは昭和52年。当時、一社のみだった舟下り観光に新参入した。

「当初は苦労の連続でした。運輸省が船の運航許可をなかなか

か出してくれない。ひたすら通い詰めて説得し、1年後ようやく『芳賀さん、あなたには負けた』と。その後も、船の規制やら何やら、とにかくお役所の説得がたいへんでした」

芳賀さんがそれでもめげなかったのは、地域に貢献したいという熱い思いがあったからだ。最上川の観光を通じて、山形県の歴史、自然、食べ物などを知ってもらいたいと願っている。

「舟下りだけで、老若男女にアピールするのは難しい時代です。その点、仙人堂は義経、芭蕉というコンテンツに加え、縁結びという若者好みのご利益もありま

す。そこで、私は仙人堂を含んだドラマを、観光の目玉にしてみました」

たとえば「仙人堂わき水コーヒー」。同地のわき水を用いて、芭蕉も飲んだ可能性があるというドラマを加えて販売している。コーヒーの伝来は芭蕉の時代に重なるため、夢のある話として好評を得ている。

縁結びにしても、最寄りのJR

高屋駅から「縁結びロード」としてPRすることで全国区に発展。出雲大社などと並ぶ縁結び神社として、全国紙で紹介されるまでになった。

「もともと、仕事上のドラマを考えているときよりも、小説を書いているときがやっぱり最高です(笑)。今後もまだまだ作品を発表していきますよ」



小説「五月雨の頃」はN大学の学生など4人の女性が最上川の自然と歴史に出会うことで新たな人生を歩むハートフルストーリー。そのイメージソングとして「雨の最上川」をリリースするなど多彩な手法で最上川をPR



義経や芭蕉にゆかりある最上川のロマンあふれる舟下りが楽しめる。5月～10月は舟の屋根をはずしオープンでの運行になる

舟くだりの最後は仙人堂で下船し、芳賀さん自ら「仙人堂わき水コーヒー」を客にふるまう



読者特典
「桜縁を見た」で乗船料大人通常1,900円を1,200円に割引。
「小説芭蕉と最上川」など芳賀さんの著作を抽選で3名さまにプレゼント。詳しくはP64をご覧ください





南海放送報道制作局メディア情報センター兼アナウンス室
チーフマネージャー(局次長格)
アナウンサー・みかん一座座長

戒田 節子さん

昭和56年芸術学部放送学科卒業

S e t s u k o K a i d a



ミュージカル劇団を率いて30年 地方のよき生かし次のステップへ

県特産のみかんと、「未完成」をかけた名前を持つ愛媛のミュージカル劇団「みかん一座」。全員アマチュアの座員を率いるのは南海放送の現役アナウンサー、戒田節子さん。入社後に担当した深夜放送のラジオ番組で若者と交流するうちに劇団は生まれ、すでに30年の歴史を刻んだ。

若者はしらけてない ミュージカルやろう

「当初は1回だけのつもりだったんです。ところが、次はいつやるのとか、私も出てみたいとか、公演を手伝いたいという人が次々に現れ、私も伝えたい題材がどんどん出てきて今まで続いていた感じです」

愛媛県松山市に本社を置く南海放送のアナウンサー、戒田節子さんがミュージカル劇団を結成しようと思ったのは昭和59のこと。入社4年目だった当時、深夜放送のディスクジョッキーとして番組を持ち、中高校生のリスナーとリクエストハガキを通じて交流して

いた。あの時代、彼らは無気力、無関心、無責任の「三無主義」に陥っているといわれ「しらけ世代」と呼ばれていたが、心のなかには何かしらの情熱を持っていることは伝わっていた。

「きつと表現する場がないだけでは……と思いました。じゃあ、たくさんの方が参加できるミュージカルをやろうと決めたんです」

学生時代、放送や演劇、映画を研究するサークルで表現することの喜びを覚え、劇団四季の研究所に通ったことがあった。何よりも四季のミュージカルを見て元気が出たという思い出が背中を押した。そこで番組などで参加を呼びかけたところ、50人ほど

が集まった。「参加してもらったものの、プロ劇団じゃないから脚本・演出から演技指導もマネジメントも私がやらなければならぬ。ダンスの振り付けや作曲はさすがに仲間に頼みましたが……舞台をやり遂げたらみんな自分に自信がもてるはず。その種を学校や職場に帰ってほしいと願いながらやり抜きました」

練習に汗するメンバー 大きな活力源に

そんな第1回公演から「こんなに続くとは思っていません」
という30年が経った今、仕事では長寿番組「歌のない歌謡曲」

をはじめ、ラジオ番組を8つ持ち、取材から編集までほとんど一人で担当。イベントやテレビ番組にも出演するなど多忙だが、合間をぬって台本書きや演技指導、スポンサー集めに奔走する。

「やりがいですか？ 現在の座員には子供たちや看護師や主婦、シングルマザーなど、いろいろな人がいるのですが、汗を流しながら練習をがんばって、みんなが一つの夢に向かってる姿は感動的で、観客にも元気が伝わる感じがする。みんなが笑顔になつてくれることが、大きな活力源になつていきますよ」

国際文化交流事業の一環として平成13年には韓国・ソウル



「歌って踊るアナウンサー」が戒田さんのキャッチフレーズ。学生時代はバンドでボーカル、アルバイトでDJなどを経験。その多彩な才能を活かしてミュージカルの脚本、演出、作詞、作曲、振り付け、役者とまさにマルチな活躍ぶりだ



子供たちの成長が何よりの楽しみという。練習には小学生から高齢者まで、年齢も職業もさまざまな人が集まる。セリフの発声や歌、芝居の動きなどはプロさながら

で、同16年にはドイツ・ヴュルツブルグで海外公演も行った。特にヴュルツブルグは江戸時代に活躍した医師シーボルトの生まれ故郷とあって「シーボルトの娘イネ」というミュージカルを全編、日本語で演じた。

「言葉はわからなくとも、心は伝わったことを実感しました。来年は北米の犬ぞり使いで知られる愛媛出身の和田重次郎のミュージカル・オーロラに駆けるサムライをアラスカで行います」

時間を都合して集まってくれた座員や裏方のスタッフ、練習場を貸してくれる南海放送、応援

してくれる地元の人たち、そして戒田さんの活動を理解してくれている夫や一人息子、両親ら、多くの人に支えられてきた。

「ほんとうにありがたいと思っています。そして、地方にいるからこそできることがたくさんあります。30年間時代ごとメンバーは変わっていったけれど、2000人以上の地元の人たちがみかん一座を繋いでいってくれました。ふるさとには感謝しています」

アラスカが終わったら公民館などの小さなステージで公演するのが夢だ。劇団とアナウンサーとの2足のわらじは自分、脱げそうにない。



みかん一座の舞台上では役者として存在感を発揮する



戒田さんが主演のイネ役をつとめてドイツでも大好評だったミュージカル「シーボルトの娘イネ」のパンフレット



今宵のお宿

ホテル華の湯

福島県郡山市

文・葉石かおり
平成元年文理学部
ドイツ文学科卒業。
エッセイスト



磐梯熱海屈指の大型ホテルながら
極上のおもてなしで女性にも人気



趣味悠々

人生を、生活を、美しく彩る
フラワーアレンジメント



繊細なところが好きというシャクヤクをメインに、バラやアジサイなどの花材を用いた自由アレンジの作品



「花があるのとないのとでは雰囲気がガラリと変わりますし、部屋に飾ったときのことを考えながら、花と向き合っているとさらに楽しくなります」とフラワーアレンジメントの楽しさを語る。

始めて10年、今も月2回の教室通いは欠かさない。受講生の仲間とおしゃべりを楽しみ、時には花のことだけを考えて作品に集中することが、いいリフレッシュになるのだという。

「続けてきて良かったと思うのは、やはりウエディングの仕事に生かしていることが一番かもしれません。仕事を通じて仲が良かったお客さまには、ブーケを作ってプレゼントすることもあります。披露宴のテーブルに飾る花は、テーブルプランによってアレンジの仕方が変わってきますし、ドレスやテーブルクロスとの配色も考えながら提案しています。仕事の幅が広がり、趣味で得た知識や経験が生かしていると思います」

渡邊さんとフラワーアレンジメントとの出会いは大学時代。現在勤務しているホテルの式場でアルバイトをしていたとき、式を彩る花の美しさに魅了された。当初はそうした装花を手がける花屋さんになることも考えて習い始めたという。

「学生時代は時間もあつたし、アルバイトのお金もあつたので、のめり込んでましたね。花器も全部で40くらいありますが、そのころそろえたものがほとんど(笑)」

今年7月には初めての赤ちゃんを出産。産休後、来年春には仕事に復帰する予定だ。「今まで以上に忙しくなるとは思いますが、花と向き合う時間はとても大切な時間。それだけにずっと続けていきたいですね」



渡邊 香代子さん

平成15年国際関係学部
国際ビジネス情報学科卒業

◆プロフィール

渡邊 香代子(わたなべ・かよこ)
昭和55年静岡県生まれ。日本大学三島高等学校卒業後、本学国際関係学部国際ビジネス情報学科に1期生として入学。卒業後は御殿場のオーベルジュに1年間勤務の後、みしまプラザホテルに入社。同ホテルの式場「THE MORRIS」のウエディングコーディネーターとして、多くの挙式を手がける。

磐梯熱海駅に降り立つと、水を湛えた樹木の香りが私の鼻をくすぐった。古くから「福島のお土産敷」と呼ばれる磐梯熱海は、山々に囲まれた情緒ある温泉街。夏を迎えればかりのこの時期は、まぶしいほど新緑が美しい。

五百川沿いに立ち並ぶ旅館の中でもひと際目を引くのが、今宵の宿となる「ホテル華の湯」。松風館と華風館からなるツインタワーで、地域一番の大型旅館である。「ホテル 華の湯」の他、「栄楽館」、「楽山」と3つの宿を一手に

担当なのが、代表取締役社長の菅野豊さんだ。福島弁特有のやわらかなイントネーションと、人懐こい笑顔が初対面の人の緊張感を一気に緩めてしまう。菅野さんは工学部電気工学科出身と、旅館経営者では珍しい経歴の持ち主。それにはこんな理由があった。「大学4年生の時に父が他界して、急きよ三男の私が旅館を引き継ぐことになりました。日だけ貯金で銀行の信用を得た後、億単位の借金をして、増築を重ねていきました」

「もう一軒宿を持つこと」。そう語る菅野さんの瞳は輝きに満ちていた。遠くの山に太陽が沈む頃、待ちに待った夕食がスタート。完食を目標に掲げた料理は、多種の料理を少量ずつ提供するスタイル。印象に残ったのは肉料理2種。えまを飼料にした「福島えま豚モンゴル塩しゃぶ」は、シンプル故に豚の脂の甘味が引き立つ。「ふくしま黒毛和牛サーロインステーキ」はルビー色の美しい断面に圧巻。噛むとジュワツと広がる旨味、脂切れの良さが品質を物語る。メニューには固体識別番号も掲載。そんなところに、食材に対するシェフの強いこだわりを感じた。

温泉は趣の異なる湯舎を多種楽しめる。計30種の湯舎があり、その一つ一つを巡るのも一興。肌を包み込むようなやわらかな湯で、上がった後、肌がしっとり潤う。保温効果も高く、寝しなに開いた文庫本を1ページもめくることがなく、早々に深い眠りについた。翌朝は電子アラームが鳴る前に、野鳥の声が目覚めた。60種類の料理が並びビュッフェで朝食を済ませ、後ろ髪を引かれつつ、一路会津へ。磐梯熱海から会津若松までは車で約1時間というアクセスの良さも忙しい身にはありがたい。会津若松ではリニューアルしたばかりの鶴ヶ城をはじめとする人気観光スポットをあますところなく巡り、しめめに会津蕎麦とフルコースを堪能。歩き疲れた足とは裏腹に、軽くなった心が「また来たいね」と小さくつぶやいた。



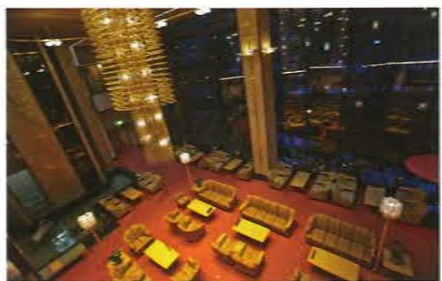
ホテル華の湯

<http://www.hotelhananoyu.jp/>



菅野豊(かんのゆたか)
(株) 栄楽館代表取締役社長。昭和45年工学

部電気工学科卒業。学生時代はグループサウンズ「ザ・スパークス」を結成し、ギターとボーカルを担当。右も左もわからない状態で旅館業に飛び込み、独自の経営スタイルで見事成功を収める。常に新風吹き込む姿勢は若い社員らの良いお手本にもなっている。



開放感のあるロビーラウンジ

ホテル華の湯
福島県郡山市熱海町熱海5-8-60
☎024-984-2222 一泊二食11,000円より(一室利用人数、時期により異なる)。かつての大型旅館のイメージを一新する「ぬくもりを感じるサービス」に定評あり。食事はビュッフェ、部屋食、食事処と様々なスタイルに対応。通り一週でない工夫を凝らした60種類以上のメニューが並び朝食ビュッフェは圧巻。



夕食はオープンキッチンを備えた「旬味きつちん風舞」で、地元旬の食材を使った和風モダン料理が楽しめる


引き継いだ当初は木造2階建ての小さな旅館だったが、一度の増築で鉄筋コンクリートの6階建てに。バブル好景気を追い風に、菅野さんはさらに勝負に出、「ホテル華の湯」をオープンさせる。「バブルの後は女時」と予測した菅野さんは、ターゲットを女性に設定。その予測は見事に的中した。最大の狙いはコンベンション施設として、常に人が集まる場所にする。コンベンションホールを2つ作ったことで、平日でも社内研修などを目的とした団体客の利用が絶えずある。これはまさに大型旅館の弱みを強みに変えた経営スタイルと言ってもいいだろう。「団体客を受け入れる一方で露天風呂付きの離れもあり、高級路線を好むお客様にも対応できるのがうちの強み。目的や予算によって旅のカスタマイズができる。これこそが私の目指していた理想の宿の形なんです」理想を手にしたながらも、「学びは一生」と菅野さんは時代の風を常に読む。学生時代に培った得意のIT技術を駆使し、日々の情報収集も怠らない。直近の夢は



華風館9階ロイヤルフロアの特別室は展望露天風呂も備えた豪華なつろぎの空間



500人の団体にも対応できるコンベンション施設。会議、パーティなど幅広い利用が可能

 宿泊(1泊2食) 10,000円相当とホテルオリジナルの「華カレー」3点セットを抽選でそれぞれ3名さまにプレゼント。詳しくはP64をご覧ください。



◆会津若松・鶴ヶ城
会津シンボル・鶴ヶ城は改修工事も終え、さらに瀟洒に。春は桜、夏は新緑と四季折々の自然と城の対比が目にも美しい。楽しみながら歴史を学べる城内の施設も見物。天守閣からは会津の街並みが一望できる。



◆猪苗代湖
猪苗代湖までは宿から約30分の距離。夏はマリンスポーツのメッカで、各地から観光客が訪れる。会津までの道中、磐梯山を仰ぎつつ、ここで小休止するのもいい。近隣には会津にゆかりある野口英世の生家がある。

みどころ



山口県立大津緑洋高等学校
水産校舎
教諭 朝岡 輝喜先生

昭和61年文理学部体育学科卒業

◆プロフィール
朝岡 輝喜(あさおか・てるき)
昭和38年生まれ。本学卒業後、山口県立水産高校に着任。相撲部監督として部員を指導する。平成7年、同県立響高校に転任。地域とも連携しながら相撲指導に力を注ぐ。平成26年、県立大津緑洋高等学校水産校舎に転任。JOCオリンピック委員会強化コーチ、日本相撲連盟公認審判員。また、山口県国体選手として10年間、出場している。

生まれ育った鹿児島・奄美大島は相撲が盛んな地。小さい頃から親しんでいたが、本格的には高校から取り組み始め、大学相撲の名門である本学相撲部で汗を流した。高校時代は全国高校相撲新人選手権大会で優勝、大学ではレギュラーにこそなれなかったが体重別部門で2年次3年次と連続優勝した。

「優勝できたのは監督のおかげ。私も指導者になって、達成できた時の喜びを生徒に伝えたいと、教師になりました」

最初に着任したのは伝統的な相撲部がある山口県立水産高校(現・大津緑洋高校)。ところが相撲人口の減少もあって部は弱体化していた。そこで再興を図り、着任2年目に部員と共同生活を始めた。「独身だった気軽さもあったのですが、寝食を共にすれば部員が相撲と向き合う時間が増えます。すると、意識が変わってくるんです。そのうち、上級生が下級生をリードしてくれるようになりました」。こうした努力が実り、同校はやがて強豪校へ振り返る。

その後、山口県立響高校に転任。相撲部づくりから出発したが、地元の支援もあって小・中学生から一貫指導することになり、そのなかからのちの豊饗関や豊真将関を育てた。

「指導者は環境づくりを惜しむな」が信条。共同生活も相撲部づくりも、保護者や学校、地域の理解があつてこそ成り立つもの。まずは生徒たちが相撲に取り組みやすい環境を整えることが大事だと考える。

そのうえで生徒に繰り返し教えるのは、相撲は練習するものではなく、稽古するものだという事。「相撲は教わるもの。技や体づくりも大切だが、教わりながら心を磨き、相撲ができることへの感謝を忘れるなど説いています」

現在、大津緑洋高校に戻ったが相撲部は廃部となっているため、相撲研究会から再スタートすべく奮闘中。一方、県の相撲連盟理事長と高体連相撲専門部委員長に昨年就任し、相撲普及や大会準備に多忙な日々を送る。

夢は部を再開し、全国制覇を達成すること。

部員と共同生活し力の強化に情熱注いだ日々 相撲人口を増やすべく、県役員としても奔走



毎分427リットルの湯量を誇る天然温泉
趣向異なる30種の湯を楽しむ極上の時間

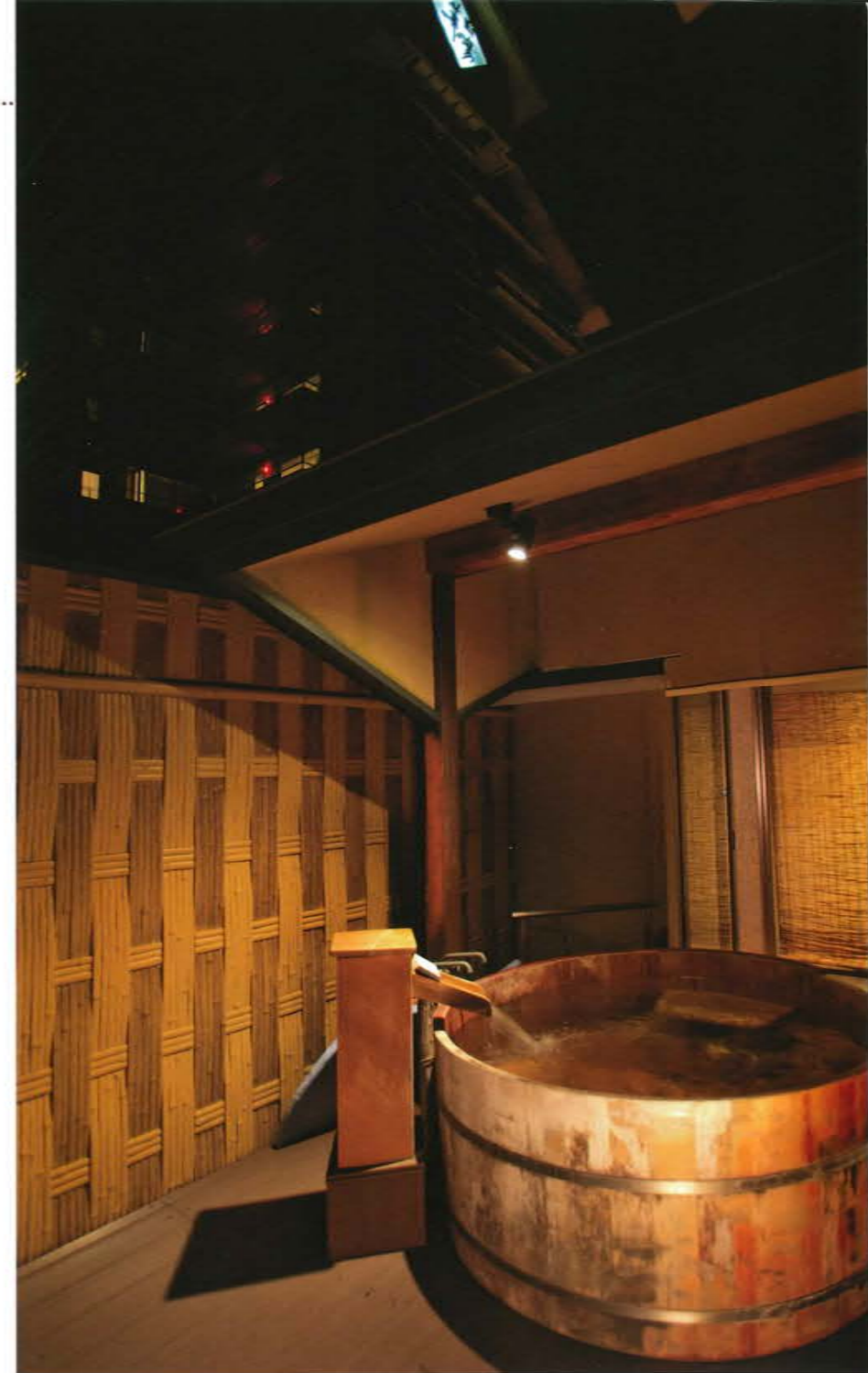


四季折々に変化する庭園散策も楽しい



多彩な柄の浴衣を選べるとあって女性客に大人気

◆ホテル華の湯へのアクセス
東北新幹線「郡山駅」より磐越西線にて「磐梯熱海駅」下車、タクシーで約5分。車の場合は、磐越道「磐梯熱海IC」より約5分



3階中庭に建つ離れ「松林亭」の源泉かけ流しのひのき樽露天風呂



泉質はアルカリ性単純泉。華風館10階の「展望ひのき癒しの湯」は、総ひのき造りの大浴場で、トルマリン湯、黒ゲルマニウムの寝湯など7種類の湯が楽しめる

山口県立大津高校、同日置農業高校、同水産高校が平成25年、3キャンパスを持つ大津緑洋高校として再出発。朝岡先生は水産校舎で保健体育を教える。後ろの船は水産校舎の実習船「海友丸」(福岡・長崎・山口の3県で共同運航)で、朝岡先生も生徒を引率して乗り込む。

面隊・混成団を指揮するのが東京・横田にある総隊です。さらにその上に防衛大臣、そして総理大臣がいて、監督、指揮する仕組みになっています。

私の仕事は隊員約6000人がいる西部航空方面隊の司令官です。航空総隊からの指示に従い、福岡県春日市の春日基地に

ある司令部から、中四国から九州の各基地を動かす最高責任者になります。司令官になるには空将という階級が必要です。空自には約9000人の幹部がいますが、空将はその中でもほんの一握りで、わずか16人しかいません。16人の最上位者が航空幕僚長で、防衛大臣の補佐として東京・

市ヶ谷にある航空幕僚監部のトップを務めるとともに、空自の最高位になります。

私学出身では 三人目の司令官に

法科出身者で 戦闘機乗りの異色の存在 米国駐在武官などを歴任し

◆プロフィール
宮川 正(みやがわ ただし)
昭和34年長野県生まれ。本学卒業後、航空自衛隊に入隊。航空自衛隊幹部候補生学校で勉学・教練を積み、昭和61年、F15戦闘機のパイロットとして第2航空団に配属。防空の前線に立つ。平成11年、防衛武官として米国に駐在。その後、東京・市ヶ谷の航空幕僚監部などに勤務し、平成25年から現職。



航空自衛隊 西部航空方面隊司令官
空将
宮川 正さん
昭和57年法学部政治経済学科卒業

54歳という若さ、端正なマスク、そして穏やかな物腰。航空自衛隊を代表する高級幹部という地位にありながら、清新なイメージの宮川正空将。私学出身では非常に稀だという航空方面隊の司令官に昨年8月に就任し、日本の防空の一翼を担う。司令部がある福岡県春日市の春日基地で話をうかがった。

5万人から選抜された
わずか16人のみの要職

●航空自衛隊西部航空方面隊司令官という職について教えてください。

航空自衛隊(以下、空自)には約5万人の隊員がいて、日本を4つのエリアに分けて防衛しています。4つとは北海道から東北まで、南東北から近畿まで、中四国から九州まで、そして沖縄・南西諸島というエリアで、それぞれに北部航空方面隊、中部航空方面隊、西部航空方面隊、南西航空混成団が任務にあたっています。

方面隊は戦闘機部隊、レーダーで監視などを行う航空警戒管制部隊、ミサイルなどもつ高射部隊、それに施設隊や音楽隊などで組織されており、これら4方

毎年、合格人数には枠というのがあって、点数がよくても不合格になる場合がありますし、試験に受かってても全員が高級幹部になれる訳ではありません。

私は指導してくれる先輩や同期に恵まれていたおかげもあって、一回で合格できましたが、方面隊司令官では私のような一般大

学出身者、しかも東大のような国立大学ではなく私学からというのは非常に珍しく、空自では三人目。ほとんどが防衛大学校出身者です。とはいえ、高級幹部への道は誰にでも開かれています。時代は変わってきていますから、一般大学出身者も今後、増えていくことでしょう。

●そもそも航空自衛隊に入られた動機はどこにあったのでしょうか?

実は民間の会社からも内定をもらっていましたが、また教職の資格も取っていたのですが、自衛隊の採用担当者の方から航空自衛隊のパイロットを募集していることをお聞きし、大変魅力を感じちゃって申し込みようと思ったんです。そこで本学卒業後に入隊し、奈良市にある航空自衛隊幹部候補生学校で、1年間基礎訓練な

た人と人とのつながりは誰にとっても大きな財産になるはず。自衛隊であろうと民間の会社で

あろうと、組織を動かしているのは人だからです。振り返ってみると、このような姿勢は在学中の活動により培われたところが大きいのではないだろうか。私の今があるのも、このアメリカ時代の人脈が評価のひとつになったと思っています。

●これからの自衛隊はどうあるべきだと思いますか？ また、学生へのメッセージがありましたらお願いします。

後輩には、いろいろなことにチャレンジしてほしいですね。法学部出身なのにパイロットになれたのは、専門知識がない真っ白の状態のなか、チャレンジする気持ちだけがきっかけだったからと自負しています。また、少なくとも3年間にはひとつの分野でがんばってほしい。すぐにあきらめてはダメだ、と伝えたいですね。

組織は人が動かすもの
人脈は大きな財産に

●これまでの任務で印象に残っていることは何でしょうか？

まず、アメリカ同時多発テロ、いわゆる「9・11」に遭遇したことです。平成11年から武官として3年ほどアメリカに滞在していたのですが、その間の出来事でした。現在の世界情勢を語るには、この「9・11」以後を語る方がわかりやすいですね。というのも、それまで安全保障は国家間で考えればよかったのですが、国家という枠組みではなく、組織や集団が脅威の対象に入ってきたからです。

もうひとつは平成15年の「イラク人道復興支援活動」で、先遣隊の隊長として任務にあたったことです。現地ではアメリカ時代と培ったいろいろな国の軍関係者とのつながりが生き、先遣隊の主任務である現地調査をスムーズに進めることができました。こういった



米国駐在武官時代の日本大使館公邸のパーティで(平成12年) (上)。米国空軍副参謀総長補佐/バセリー中將よりアタッシュ(駐在武官)としての承認を受ける(平成11年) (下)

どの教練を重ねました。幹部になるには候補生学校に入る必要があります。防衛大学の卒業生は無試験で入れますが、それ以外の一般の大学の場合は、まず公務員採用試験(入隊試験)に合格しなければなりません。幹部候補生学校は全寮制で規律は大変厳しいです。ちょうど大学のきつめの運動部合宿をイメージしていただければいいでしょうか。私は修了後、戦闘機パイロットとしての訓練を約3年間受けた



西部航空方面隊司令官としてタイ王国空軍司令官プラジン・ジュント大将と交流(平成25年)

後、北海道の千歳に基地がある第2航空団に配属されました。戦闘機のパイロットは敵機との戦いが前提ですから、飛行技術だけでなく戦技も磨かなければなりません。一人前になるには約10年かかります。それも選ばれた人のみ。幹部候補生の同期にはパイロットコースに6人がいましたが、最終的に資格を取



れたのは私を含めて2人だけです。訓練はそれを厳しく、入隊後3年間は青春というものがありませんでした(笑)。そんな環境のなかでも頑張ったのは、自分で選んだ道なのだから続けていくんだという意地があったからでしょう。

ただし、資格は一度取っても毎年更新が必要になります。特に身体能力は高いレベルが求められ、例えば、血圧が140を超えたり、内臓疾患があると乗れません。私の場合、戦闘機を降りてずいぶん経ちますから、現在、自分で操縦できるのはT-4という練習機のみです。



第83航空隊司令兼那覇基地司令時代、最後のフライトを隊員たちが祝福(平成22年)



市民にも親しまれている西部航空方面隊築城基地の航空祭。人気のブルーインパルスの演技が行われた(平成25年)



F15戦闘機での雄姿



株式会社鎌倉ハム村井商会



芳醇な肉の旨味を凝縮したハム
手づくりのこだわり
発祥の味と技術をいまに伝える

燻煙を施した芳ばしい香りにはじよい塩加減と歯ごたえ。かめばかむほど豊かな肉の甘みが口に広がり、ほのかな香辛料の香りが鼻から抜ける。ピールはもちろん、ワインならキンと冷えた白だろわか。いや、ウイスキーの強い香りにもこれなら負けな。1.5ミリほどにスライスした薄桃色がかつたロースハムは、それを食すものの想像を限りなく広げてくれる。

横浜市に本社を置く鎌倉ハム村井商会（以下村井商会）。明治期を発祥とする鎌倉ハムブランドを受け継ぐ老舗企業である。なかでも「伝承骨付きハム」は、創業時と変わらぬレシピと製法を継承する一品。その伝統の技と味から生まれた人気商品が「熟成ロースハム」である。2℃で保管した生肉を塩漬してから10℃の冷蔵庫で長期熟成させるとイノシン酸やアミノ酸といったうまみ成分が醸成される。こうして熟成した肉を乾燥、ポイル、燻煙してでき上がったのが、このハムの味なのである。伝承の味と技術を守る味のマイスターは5人。そのレシピは限られた人から人へと伝えられ守られている。

そもそも日本で最初にハムが作られたのは明治5（1872）年、長崎のことといわれている。ほぼ同じ頃、横浜、札幌といった外国居留民を多く抱える都市周辺でも外国人たちによってハムが作られるようになる。神奈川県鎌倉郡柏尾村（現在の横浜市戸塚区）ではイギリス人ウイリアム・カーチスが横浜の外国居留民向けにハムを作り始めた。明治7（1874）年のことである。やがて、カーチスにハム作りを学んだ日本人たちは、神奈川県内に続々とハム製造会社を興し、その勢いは全国に広がり、この鎌倉を発祥とするハムはいつしか「鎌倉ハム」と呼ばれるようになった。従って鎌倉ハムとは一企業名ではなくいわば地域ブランドで、現在も神奈川県内には鎌倉ハムを名乗る企業が4社ある。村井商会もその一つだが、村井社長は何よりも発祥のハムの味にこだわり続けているのである。

「塩とローレル、シナモンなど4種類の香辛料を加えただけの漬込み液のレシピと手づくりの製法は昔から変わっていません。



株式会社鎌倉ハム村井商会

www.kamakuraham.co.jp

神奈川県横浜市瀬谷区卸本町2147-7

TEL:045-921-1041

ギフト専用ダイヤル:0120-87-1041



村井 功誠（むらい・こうせい）
昭和36年農獣医学部畜産学科卒業。株式会社鎌倉ハム村井商会代表取締役社長。高校時代は野球部でキャッチャーとして活躍、六大学野球へ憧れるも家業につながると本学へ進学。卒業後、大阪の鳥清畜産工業（現日本ハム株式会社）で1年間修業し、村井商会へ。昭和52年、長兄の急逝により代表取締役社長に就任。「安全・安心・信頼・美味しい」をモットーに、鎌倉ハムの伝統の継承に情熱を注ぐ。座右の銘は「万物に感謝」。

株式会社鎌倉ハム村井商会
昭和4年、現社長の曾祖父にあたる村井菊次郎氏が、日本の食肉業の草分けである武田屋から独立して横浜で創業。昭和34年株式会社となり、国内外の生産者と提携し食肉の加工、卸売など幅広く展開する総合食肉企業として発展。横浜市の本社のほか、川崎市に営業本部、千葉市に支社などを置く。正社員78人。商品はOKストアなどで購入できる。

明治期に始まった鎌倉ハムの味と技術を継承していくという信念を変えないこと、それがお客様と生産者との信頼につながっていると思います」

ハム・ソーセージなどの食肉加工品の普及は昭和の食卓を大きく変えた。だが低コスト・大量生産の流れは食肉の安心・安全を脅かすことにもなった。そうした中で、信念をもって昔ながらのレシピと手づくりの製法を守ってきたのが村井商会だ。

「人の命をお預かりしているのがわれわれの仕事。全てを消費者の皆さんに可視化して『安全・安心・信頼・美味しい』をさらに追求していきます」

村井社長の姿勢はぶれない。ロースハムの豊かな味もその信念の証しと思えた。

🎁 鎌倉ハム村井商会の「熟成ロースハム」を抽選で5名さまにプレゼント。詳しくはP64をご覧ください。

竹内 康雄さん

昭和46年商学部商業学科卒業

ふるさと案内人



絵：なかだえり

◆「よさこい祭り」

毎年8月9日の前夜祭を皮切りに、10・11日の本番、12日の後夜祭と、高知市中心部がエネルギッシュな踊りで熱く燃え上がる4日間。地元はもとより、全国から踊り手がチームを組んで参加し、かつては本学チームの出場もあった。

なかだえり/平成9年生産工学部建築工学科卒業。イラストレーター

はつらつとした踊りが 町を一色に染める

高知は坂本龍馬のイメージが強いのですが、今や全国で踊られている「よさこい」発祥の地でもあります。正式名称を「よさこい鳴子踊り」というこの踊りは昭和28年、高知市を元気づける催しをやるうと有志が企画。翌29年8月10・11日の両日、「よさこい祭り」として第1回目が行われ、21団体総勢750人が市の中心街を練り歩きました。

以来、祭りの規模は年々大きくなり、開催日も4日間に拡大。優秀なチームは表彰するなどして全国から注目を集めるようになり、開催60周年となった昨年は216団体2万人以上がさまざまな衣装・振り付けで踊り、観客も延べ100万人を超える賑わいを見せました。

弊社も昭和48年からチームを結成して参加。オリジナルの振り付けや音楽を工夫したおかげで、平成10年から3年連続で最優秀賞の「よさこい大賞」を受賞。ここ10年も金賞や銀賞に毎年輝いています。

「よさこい」の魅力は、なんといってもはつらつとした踊りにあるでしょう。それを観客がかなり近くから見られること、誰もが参加でき、振り付けや音楽を基本の振りとワンフレーズさえ入れておけば自由にアレンジできる点もいけますね。市中心部に16カ所ある会場をチームが順に巡って踊っていくのですが、街中がよさこい一色に染まる様はとても見応えがあります。

高知は自然も素晴らしい。特に透明度の高さで最近注目されている仁淀川はぜひ訪れてほしい川です。私も小さい頃、この川で遊んだものですが、上流へいけば「仁淀ブルー」といわれる独特の碧さをたたえた清流に出会うことができ、感動的です。

水平線がどこまでも伸びる海の眺めも私のお気に入り。その海や豊かな大地がもたらす食は高知の自慢ですし、食を盛り立てる日本酒造りも盛んで、それらでお客様をもてなす「おきやく」という文化もあります。ぜひ、高知にお越しいただき、そんなわがふるさとを満喫していただきたいものです。

みどころ ● 高知市と周辺



◆プロフィール

竹内 康雄 (たけうち・やすお) 昭和24年高知県生まれ。本学卒業後、旭食品に入社。昭和50年、同社高知東販売の取締役役に就任。以後、同社関連会社で数々の役員を歴任。現在、同社代表取締役副会長。高知県経営者協会会長、高知県中小企業団体中央会常任理事などに就任し、地域経済へも貢献している。平成20年、高知市長表彰を受賞。

◆仁淀川

全国的に有名な四万十川と並び、最近テレビ番組などを通して注目を集めているのが全国一の水質を誇る仁淀川(国土交通省調べ)。石鎚山麓に源を発し、高知市と西隣の土佐市で太平洋に注ぎ込む。特に上流の安居渓谷の透明度は素晴らしい



◆龍馬が生まれたまち記念館

龍馬が生まれた高知市上町にある記念館。上町の歴史や文化、龍馬の家族やゆかりの人物を紹介し、その人間形成の背景などをたどることができる



◆竹林寺

平成26年に開創1200年を迎えた四国八十八カ所霊場。8世紀に開山された竹林寺はその三十一番札所で、50年に一度の秘仏本尊文殊大菩薩ご開帳が行われている



◆桂浜・龍馬像・高知県立坂本龍馬記念館

弓状の砂浜が広がる風光明媚な海岸。太平洋を眺めるように坂本龍馬像が建っており、連日、多くの観光客で賑わっている。浜の高台には印象的な建物デザインの高知県立坂本龍馬記念館がある



◆カツオのタタキ

高知を代表する料理。カツオの表面をワラでいぶすもので、分厚く切った身をニンニクとともにいただく。ポン酢をつけるのが一般的だが、地元では塩で身を叩いた塩タタキが人気



埼玉西武ライオンズ 投手

十亀 剣さん

平成22年経済学部経済学科卒業

◆プロフィール 十亀 剣(とがめ・けん)
昭和62年愛知県生まれ。小学生から野球を始め、愛工大名電高校では春のセンバツ、夏の甲子園にも出場。本学野球部では、4年時エースとして26試合中22試合に登板する活躍を見せる。卒業後はJR東日本に入社し、野球部で活躍。平成23年のドラフト会議で埼玉西武ライオンズから単独1位指名を受け、プロ入りを果たす。右サイドスローからの最速151km/hのストレートのほか、スライダー、カーブ、シュートが持ち味。

ファンの期待を背負い
自分のピッチングで
日本一をつかみたい

目標とするのは東京ヤクルトスワローズの館山昌平選手。大学野球部の先輩でもあり、同じサイドスローで見習うことが多いという



十亀選手の背番号入りタオルマフラーとストラップを抽選でそれぞれ1名さまにプレゼント。詳しくはP64をご覧ください。

プロ1年目から1軍に入り、中継ぎとして6勝無敗。2年目の昨シーズンは先発ピッチャーとして8勝8敗の成績を残した十亀剣選手。今シーズンは監督が変わったこともあり、シーズン直前に中継ぎ起用を伝えられた。

「先発もたいへんですけど、中継ぎは毎日肩を作らないといけないので、体のケアが難しいですね。どちらにしろ結果が出ないと2軍に落とされますし、1軍で投げてこそその世界ですから、本当に厳しいところです」

シーズン当初は中継ぎだったが、5月に入ってからは再び先発に復帰。序盤はチームの調子も上がらないなか、今後その右腕に期待がかかる。

「高卒の選手とは違ってプロ入りが遅かったので、太い野球人

生を送りたいんですよ。できるだけ多くのファンに名前を覚えてもらって、『あいつなら任せられる』というような選手になりたいですね。なんらかの形でプロ野球史に名前を残せるような活躍ができればと思っています」

高校卒業から6年かかってつかんだプロの世界だが、プロ入りを意識したのは本学在学中だった。

「東都リーグでエース級の選手は、ほとんどプロ入りしていましたから、自分もここでエースになればプロに行けると頑張っていました。でも大学時代の練習が一番きつかったですね」

目指すところはまずはリーグ優勝、それから日本一になってビールかけをするのが夢という十亀選手。西武ドーム球場に大きな夢が開くことを期待したい。

「子育て環境日本一」を掲げ
数々の育児政策を実現



茨城県龍ヶ崎市

首長
に聞く
中山 一生 市長

平成22年法学部
法律学科卒業

K a z u o N a k a y a m a

どの自治体にとっても、定住者の増加は大きな課題だ。他地域との差別化は悩みの種だが、中山一生市長は育児に優しい町の整備こそ、若い世代の定住につながるかと考える。同時に必要なのは、町がもつ魅力を最大限に引き出し、伝えること。地域資源を活かし、市民が自慢できる町をつくることで、イメージと知名度の向上を図っている。

龍ヶ崎市は今年度から、一時保育など五つの保育事業を利用した保護者に、料金の半額を助成する「たつこ預かり保育利用助成事業」を開始した。市内の小学3年生までを対象に、一人年間3万円を限度に助成する。「子育て環境日本一」を掲げる中山一生さんが、新たに打ち出した施策だ。

「出生率低下や少子化は、国会議員だった父親の秘書をしていた時代から、国の屋台骨を揺るがすような深刻な問題と認識していました。妙薬はなかなか見つかりませんが、県議会議員を務めていた頃に第一子が生まれ、親の立場になったことで、育児の負担をいかに減らすかがまずは重要であると痛感したんです。安心して子どもを産み、育てられる町。その整備を基軸にしながらい定住者を増やし、市の活性化につなげていきたい。」

子育て環境の整備を軸に
イメージの向上を図る



市長に就任した年には、育児休暇（育児）の取得率向上を目指し、特別職（市長および副市長）が育児を取得できるように条例を制定。ちょうど第二子が生まれた時期に重なったため、育児の浸透と普及を図る目的で自らが通算で3週間の育児を取得した。当時、首長の育児は全国的にも珍しく、注目を集めた。現在、同市で子どもをもつ男性職員の約四割が育児を取得するなど、着実に成果を上げている。

「現在、当市は待機児童ゼロを実現していますが、共働き世帯にとって、保育園への子どもの送迎も負担となります。そこで通勤利用者の多いJR佐貫駅前には送迎ステーションを設置し、保育園との送迎を代行するサービスを開始したい。きめ細かい行政サービスを、コツコツ積み上げていくことが大切です」

地域資源を見直すことで市の潜在能力を引き出す

同市は今年、市政施行60周年。都心から約45キロという好立地もあり、歴史と活気にあふ

れた町として発展してきた。しかし、常磐線の西に縦走するつくばエクスプレスが開業したことで、近年は隣接する取手市、牛久市などの勢いに押され気味だという。龍ヶ崎の知名度やイメージの向上は大きな課題だ。

「まず市の顔ともなる最寄りの駅名が『佐貫駅』では、当市の名前を覚えてもらえませんが、なんとか駅名の変更を実現したいと思っています」

市の潜在能力を引き出すことにも力を入れている。たとえば、牛久沼。都心の近くでありながら非常に風光明媚な場所。豊かな自然を満喫できる。そのような地域資源をもっと活用するため、「シティセールス課」を新設してPR活動に力を入れ始めた。また、「ブランドアクションプラン」を策定し、米をはじめ農産物などのブランド化を推進し、市産品のPRにも力を入れていく。

「今後は企業誘致なども振興する予定ですが、重視しているのはあくまで当市の魅力に賛同してもらおうこと。土地価格など実利面だけの競争では、どの自治



① 名前は牛久だが全域が龍ヶ崎市の牛久沼。うな井発祥の地とも
② 7月に龍ヶ崎市上町の八坂神社祇園祭にて行われる舞撞（つぐまい）
③ 市庁舎
④ 盆太鼓をベースにした伝統的創作太鼓「龍神太鼓」
⑤ 龍ヶ岡公園のたつこの山からは市内を一望できる
⑥ 総合体育館たつこのアリーナ
⑦ 市長が市民との意見交換の場として力を入れているタウンミーティング



将来に悩んだ学生時代が現在へとつながっている

体もメリットの少ない不毛な争いになります。土地の魅力や制度の充実などにより、龍ヶ崎で事業をしたいと自然に思ってもらえることが何よりも大切です」

国会議員を務めた祖父、父をもつ政治家の家系。後継の道は自然に考えていたが、大学時代は多めに悩んだという。

「法学部でしたので、一時期は法曹も目指しましたが、アルバイトをしていたホテルマンの仕事がおもしろくて、そのまま就職も

考えました。結局、卒業後は父の秘書になりましたが、大学時代という人生の分岐点でたくさん悩んだこと、その上で決断したことが、とても有意義だったと思います」

市長選に出馬したのは、県会議員として政治家デビューしてから約3年後。予期していない選挙だったため悩んだものの、首長として市民に貢献したいという思いや、何かピタリくるタイミングを感じて出馬を決意。見事、当選を果たした。当初はプレッシャーを感じたものの、サポートしてくれるつながりの多さに安心感もあったという。

「なにしろ周りに日大出身者が多いんです。前市長が日大ですし、市職員も一番目に多いのが日大。これはやっぱり仕事しやすいですよ（笑）。また、静岡県裾野市の前市長も日大出身という縁で、震災後にいち早く相互援助協定を結びました。日大というだけで、私たちは全国につながりができる。その優位性を、みなさんもぜひ活用してください」

市政のトップたる責務と、小さな子どもをもつ父親の目線。双方を融合しながら、市民が自慢できる町、住み続けたいと思える町を目指していく。



市のマスコットキャラクター「まいりゅう」のトートバック、ボールペンを抽選で3名さまに、ポロシャツを2名さまにプレゼント。詳しくはP64ページをご覧ください。

◆プロフィール

中山 一生（なかやま・かずお） 昭和37年茨城県生まれ。本学卒業後、父親の衆議院議員中山利生氏の公設秘書に就く。利生氏の防衛庁長官時代は秘書官、その後は政策担当秘書を務めた。平成15年より自民党茨城県衆議院比例区第一支部長を務めたのち、平成17年の衆議院議員選挙に無所属で出馬するも落選。翌年、茨城県議会議員選挙で初当選。約3年間県議を務めたのち、平成21年に龍ヶ崎市長に当選。座右の銘は「正射必中*」。

*趣味である弓道の用語。プロセスをきちんと踏めば、必ず結果はついてくることの例え。



先輩に・
INTERVIEW
インタビュー

アナウンサー の仕事

テレビ番組の司会やアシスタント、ニュースキャスター、リポーターなど、言葉を伝えるプロとして活躍するアナウンサー。わかりやすく、言葉で物事を伝えるスキルが不可欠な難しい職業です。また、いわゆる「女子アナ」は、テレビ局の華として番組を盛り上げ、出演者と視聴者をつなぐ役どころも求められます。

日本大学は多くのアナウンサーを輩出してきましたが、今回は女子アナの皆さんにスポットを当てました。文理学部英文学科で学ぶ榎原詩奈さんが、朝日放送株式会社にアナウンサーを務める喜多ゆかりさんにインタビュー。また、全国で女子アナとして活躍する校友の皆さんに、この仕事の魅力をうかがいました。



Yukari Kitahara



Mikito Tomioka



Yuki Tsurumi



Ayumi Komai

「山田顕義と近代日本」展 学祖生誕170周年を記念して 郷土・萩市の博物館で開催



押田本学名誉教授の講演

学祖・山田顕義の生誕170周年を記念して生誕地である山口県萩市の萩博物館で特別展「山田顕義と近代日本」が、4月19日から6月22日まで2カ月間にわたって開催された。

これは、萩出身で日本最初の司法大臣として活躍した山田の業績を顕彰しようと同市が企画したもので、本学では広報部大学史編纂課が企画から協力し、本学所蔵の資料52点が出品された。なかでも本学創立百周年記念事業の一環として平成元年に実施された護国寺の学祖墓所整備に伴う遺骨発掘調査の成果に関する展示は、多くの来館者の関心を集めた。展示は、生い立ちから、軍事、政治、教育・文化など学祖の多彩な活動を紹介しながら、その人間像と学祖が近代日本の形成期に果たした役割に迫るものとなった。



平成16年に開館した萩博物館



フォーラム終了後はパネリストが直接展示物を解説。参加者は熱心に聞き入っていた

山田顕義 押田本学名誉教授が特別講演 フォーラム 学祖の遺体発掘の逸話も披露

期間中の5月25日には、関連イベントとして「山田顕義フォーラム」が萩博物館講座室で開催され、本学の押田茂実名誉教授（法医学）が「山田顕義の遺体が語るもの」と題して特別講演を行った。遺体発掘に関わった押田名誉教授は、当時のエピソードを語りながら、「短期間で成果を上げることができたのは、学内で医学、歯学から人類学、食用作物学、被服構成学といった多様な研究者の力を結集できたからで、まさに日本大学の総合力が発揮された調査だった」とその意義を述べた。



パネルディスカッション

また、パネルディスカッションでは本学大学史編纂課の課員3名がパネリストとして学祖の「軍事面」「政治面」「教育・文化面」の業績を報告。会場には約100名の市民が聴講に訪れ、パネリストの報告に熱心に耳を傾けていた。



来館者の関心を集めた遺体発掘に関する資料展示

特別展「山田顕義と近代日本」の図録を、抽選で3名さまにプレゼント。詳しくはP64をご覧ください。



榊原詩衣奈（文理学部英文学科4年）さんが
朝日放送アナウンサーの喜多ゆかりさんに
聞く

出演者やスタッフと 一体感を築きながら わかりやすさと 親しみが感じられる 伝え方を工夫する

文理学部4年の榊原詩衣奈さん。銀行などの金融業界に興味がある一方で、アナウンサーという華やかな職業への好奇心も。しかし、アナウンス技術のほかに何を求められ、具体的にどんな仕事をしているのかは意外にわからない。大阪の顔ともいべき長寿番組に長く出演している喜多ゆかりさんを訪ね、仕事の実態や、アナウンサーという狭き門をくぐるまでの道のりをうかがった。

人間性を見せることで
視聴者に認めてもらう

——担当されている番組と、お仕事の内容を教えてください。

メインの仕事は、毎週月～金曜日、朝6時45分～8時に放送している「おはよう朝日です（おは朝）」という情報番組のアナウンサーです。入社2年目から担当しており、今年はちょうど10年目。毎朝4時起ききの生活がずっと続いていきます。もはや生活の一部ですね。

おは朝はABCの顔とも言える長寿番組で、放送開始から36年目に入りました。生放送ならではのライブ感が人気なので、あまり細かい打ち合わせはしません

が、それだけに臨機応変な対応や瞬発力が求められる仕事です。単に情報を伝えるだけではなく、出演者のとらえ方、出演者のとらえ方、即座に切り替えることが大切です。

——入社2年目で、そんな看板番組に起用されるのは大抜擢ですよね？

入社1年目の秋から、おは朝の前の時間帯に放送している番組を担当したんです。でも初め

は、情報の伝え方、出演者とのやりとりなど、自分の仕事にひとつ納得できずに号泣してしまつたのを覚えています。だから、大抜擢という感覚はまったくありませんでした。

おは朝を担当してからも1年



インタビュー
榊原 詩衣奈さん
文理学部英文学科4年

朝日放送株式会社
(ABC)
編成局 アナウンス部
アナウンサー
喜多 ゆかりさん
平成16年
芸術学部放送学科卒業

間は苦しみました。当時、司会者は会社の大先輩であり、現在はフリーアナウンサーとして活躍されている宮根誠司さん。私は少しでも番組を盛り上げたくて頑張っていたんですが、宮根さんから「視聴者に認めてもらうまではでしゃばるな」とびしやり。内心「なんてひどい人なんだ」と(笑)。

すると、出演者の皆さんとはお互いにボケ・ツッコミで盛り上がる一体感が出てきますし、視聴者には「隣のお姉ちゃん」のような親近感を覚えてもらえるようになります。ですから、私も「やりすぎ」とツッコミまれるくらい自分をさらけ出しています(笑)。



Y u k a r i K i t a

番組には司会者と視聴者が作りあげてきた世界があるんです。ですから、新人がその世界に入ってもらうには、まずは視聴者に自分の存在を認めてもらう必要があります。宮根さんは、それを教えてくださったんです。

高校時代、朝礼などで生徒会長が定期的な報告をしたりしますよね。それがあまりに生真面目すぎて、「自分ならもっと楽しく伝えられる」という思いが強かったんです。人を笑わせることが大好きだったので。

いい意味で裏切られましたね(笑)。大学では、アナウンサーに必要な内面の豊かさを身につけたら、色々な経験ができる場を与えてもらえると勘違いしてたんです。もちろん、実習などはあるんですが、まったく物足りない。それで、自分からどんどん外に出ていこうと思うようになりました。

これは特に大阪の特徴でしょうね。東京の女子アナは、普段は控えめにしていて、必要なときにきれいなパスを出せるようなスキルが求められます。でも、それを大阪でやっていたら、永遠に番組の一員になれません。やはり会話の基本にボケとツッコミがありますので、自分の人間性やキャラクターを全面的にさらけ出して、皆さんにかわいがってもらうことが大切です。

そこで実際に自分が生徒会長になり、人前でスピーチを工夫しました。オリジナルティのある言葉で物事を伝えること、同じ内容でも人の心に届く伝え方すること。その作業がすごく好きになって、アナウンサーという道を考えました。

結局、大学では最低限の知識やスキルを与えるから、あとは自分の実行力で探求しなさい、自分は自分で磨きなさいという方針だったんですね。「芸術」学部ですから、考えてみれば当たり前前の話です。それを教えてもらったことに、いまはとても感謝しています。



アナウンサーの仕事



◆プロフィール
喜多 ゆかり(きた・ゆかり)
昭和56年埼玉県生まれ。本学卒業後、朝日放送(株)に入社。現在、「おはよう朝日です」「たけしの健康エンターテインメント!みんなの家庭の医学」「なるみ・岡村の過ぎるTV」に出演。大学1年まで続けた剣道は三段の腕前。将棋、スケート、ボウリング、ゴルフなど何でもこなす。

象に残っていることは?

3年生のとき、外部の就活セミナーに通いました。そこで自分を一言で表すという課題を考えたら、「元氣」「明るい」とか薄っぺらな言葉しか出てこなくて。しかも、それを裏づける証拠が何もありません。

そこで、いつも隣の席にいた他大学の友人とコンビを組んで、漫才日本一を競うM-1グランプリに出場しました。人を笑わせることが好きなら、それを証明しなきゃいけないと思って。なんと三回戦まで進んで、一時はお笑いの道も考えたんですが、ちょうど同じ時期に運良くABCに合格して現在に至ります。もともと、M-1に出場したからこそ、ABCにも評価してもらえたんだと思います。

すごい行動力ですね。

じつは自分に自信がないことの裏返しなんです。いつも人の長所ばかり目について、自分が自信をもつて出せるものがない。でも、ないなら身につければいいだけの話です。

学生時代に、自分が誇れるものを見つけたのは難しいかも知れません。でも、何か一つでも長所があるなら、それを証明するような行

動を起こしてほしいと思います。大学に用意してもらったものに満足していたら、ほかの人と同じレベルで終わってしまいますから。

多くの人に共感される話し手を目指す

——この仕事の魅力は何でしょう。また、一番うれしいのはどんなときですか?

生放送は文字通り生もの。伝える情報も、スタジオの雰囲気も毎日変わります。一つのコーナーにしても、「いつも通り」では視聴者に飽きられてしまいますから、新たなおもしろみを探さないといけません。あるいは、震災などの緊急時にどう対処するか、出演者が変わったら自分のポジションをどこに置くか。とにかく、この仕事に一生ゴールはないんです。それだけ工夫の余地にあふれていることが、最大の魅力だと思います。

うれしいのは、そういう工夫が実って、視聴者のみなさんに喜んでもらえたり、スタッフさんとの一体感が味わえるときですね。たとえば、私はたまに変な顔をして笑いに近づけることがあるんですが、カメラマンさんはそのタイミングをちゃんと読んでいて、いつもピツタ

リタイミングで映してくださるんです。その気持ちよさったらもう(笑)。チームプレイもこの仕事の大きな魅力ですね。

——今後の目標を聞かせてください。

アナウンサーは自分で言葉を選び、削ぎ落として伝えることが仕事です。その選び方、削ぎ落とし方が話し手オリジナルの世界になっていきますし、その世界を一番伝えられるのはラジオなんです。また、ラジオはとても聴取者に近いメディアで、話し手と聞き手がほぼ一対一の関係にあります。そのため、聴取者が話し手に抱く親近感や一体感がとても強いんです。好きなラジオパーソナリティーの世界にはまった経験がある人は多いんじゃないでしょうか。

ABCはラジオにも力を入れていきますので、私もいずれは自分の言葉や話術で表現した世界を楽しんでいただけようかな話し手になりたいですね。

——テレビからは見えにくい仕事の魅力や難しさがありました。ありがとうございました。



スタッフ全員が一つの机を囲んで打合せ。笑いが飛び交いながらも真剣な議論を重ね、その日の構成を組み立てる

インタビューを終えて

今回のインタビューを通じて感じたのは、「人と人との出会い、仕事にかかわる人との信頼関係の大切さ」です。生放送の番組を円滑に進めるためには、どれだけ相手のことを考えられるか、そのためには仲間との信頼関係が大切なのだというお話が印象的でした。様々な情報を視聴者の皆さんにわかりやすく、関心をもたれるように伝えるか、ましてやそれをチームで作り上げるには、仲間との信頼関係なしにはできないということを学びました。また、自分の得意分野を成長させるために努力を惜しまないという喜多さんのお話をうかがい、私も残りの学生生活で改めて自分を見つめ直し、自信を持って社会に出られるよう、一日一日を大切に過ごしていこうと思いました。



先輩に INTERVIEW インタビュー

ケーブルテレビ局は、地元の情報発信する独自のチャンネルをもっています。当局にも「JCTVコミュニティチャンネル」があり、私は月々金曜日に放送している地域ニュースのキャスターをしています。また、放送地域で開催されるイベントや、地元の飲食店などのリポートもよく担当します。

ただなので、とにかく仕事は多いですね。私も入社2日目から現場に出てリポートをするなど、場数を踏みながら仕事を覚えましたが、アナウンス研修はもちろんありますが、自分で技術を高める必要があります。

また、番組制作も同時に担当します。企画・構成に始まり、自分でカメラをかついで取材にも行きますし、アナウンス原稿を書いたり、VTRの編集もします。テレビ局で必要とされる仕事は、ほぼ何でもこなさないとはいけません。

難しいのは、やはり伝え方です。原稿を書くときに一番気をつけているのは、誰が見ても不快にならない表現。もちろん、子どもから高齢者まで、誰もが理解できる内容であることも必須です。常に客観的な目線に立つことを心がけています。

私はまだ指示されたことをこなすのが精一杯ですが、いずれは自分が先頭に立って番組作りをしたいと思っています。そのためにも、今後はリーダーシップを身につけることを意識していきたいと考えています。

地域のニュースが中心となるので、「入社当時は、初めての土地で地名などを覚えるのに苦労した」という



上越ケーブル
ビジョン株式会社
放送部
アナウンサー
鶴見 幸恵さん
平成22年
芸術学部放送学科卒業

◆プロフィール
鶴見 幸恵(つるみ・ゆきえ)昭和62年東京都生まれ。在学中は応援リーダー部に所属し、レギュラーとして活躍。同部の監督から現社を紹介され入社した。入社当初は、年配者と何を話していいかわからず、インタビューに苦労したとのこと。「どんな仕事をするにせよ、学生時代に、大人と話す機会をたくさんつくっておくことが大切です」



情報を一番的確に伝えるには、取材映像のどの部分を使い、どこを切り捨てるかが重要。編集にも力が入る

声の仕事をこなしつつ ディレクター業務を兼務 番組作りの最前線に立つ

アナウンサーは通常、アナウンス業務を中心とした専門職ですが、地方局では番組制作に携わることが珍しくありません。私も番組の企画、構成、取材などディレクター業務を兼務しており、自分が出演しない番組も数多く手がけています。

また、番組に必要な看板作りなど、何でも屋さん的な仕事もしています。道具の製作は、建築学科出身の私にとってはお手の物。アナウンサーとして入社したのに、建築の技術が役立つとは思いませんでした(笑)。

もちろん、メインはアナウンス業務。地方局はアナウンサーが少ないため、声が必要な仕事は何でも担当します。定時のニュースやVTRのナレーションなどに加え、スポーツ中継の実況、CM番組への出演など、私も多様な仕事をこなしています。

特に気をつけているのは、わかりやすいニュースです。当然ですが、ニュースを伝える側は、その情報に詳しくなります。すると、初めてそのニュースを見る視聴者へのケアが足りない恐れも出てきます。そこで、原稿を読む私が情報を咀嚼し、句読点や間などをうまく活用しながら、わかりやすく伝えるよう心がけています。

また、実況や現地リポートなどでは、下調べが不可欠です。スポーツならばルールや選手名。取材にしても、対象となる分野・人物に



熊本出身のため、当初はイントネーションに苦しんだ。現在もアクセント辞典は必携で、常に気を配りながらマイクに向かう



長野朝日放送
報道制作局制作部
アナウンサー
富岡 美希さん
平成16年
理工学部建築学科卒業



入社試験のカメラテストで自分だけ違う要求をされ、「こりゃ落ちた」と思ったそう

Miki Tomioka

◆プロフィール
富岡 美希(とみおか・みき)昭和55年熊本県生まれ。本学在学中、プレゼンを学ぶためアナウンス学校に入学。卒業後も建築の勉強を続けていたが、それが縁で現社の採用試験を受け、合格を果たした。アナウンスの仕事は大好きだが、「VTRを完成させたときの最高にうれしい(笑)」と、やはり何かを作ることへの情熱は人一倍。

書籍紹介



私が輝く、パリジェンヌ・レッスン

著者/畠山 奈保美

日仏文化コーディネーター
昭和61年芸術学部演劇学科卒業

●発行/ソフトバンククリエイティブ株式会社
価格1,400円(税別)

パリと日本を行き来しながら、ヌーベル・シャンソンの歌手として、また日仏文化交流のコーディネーターなど、多岐にわたる活動を行っている著者。ファッション、暮らし、生き方など、長いパリ生活の中で体験してきたエピソードをもとに、エスプリに満ちたパリジェンヌならではのエッセンスを取り入れて、美しく、しなやかに年齢を重ねていこうと提案する。著者の言うように単にパリジェンヌをまねするのではなく、日本女性ならではの美しさに目覚め、自国の文化に自信を持つことが魅力的な人生を送る秘訣なのかもしれない。

富士山の単語帳

編著/佐野 充

地理学者・文理学部地理学科教授
昭和51年大学院理工学研究科修了

●発行/世界文化社 価格1,800円(税別)

昨年、世界文化遺産に登録された富士山。自然、文化、歴史と多方面から富士山にまつわる言葉を集め、四季折々に美しい写真とともにその魅力を紹介。たとえ東京のビルの間から顔をのぞかせる富士山であっても、つい山容に見とれてしまうのは、日本人の心に深く刻まれてきた象徴的な山だからに違いない。登山家の田部井淳子氏を監修に迎え、富士山の自然、人文、社会、芸術、文化を研究する日本学術会議協力研究団体である富士学会が企画、同学会副理事長が編著者を務めており、富士山のすべてがこの一冊に凝縮されている。



南極日和 極地を「仕事」にする人たち

著者/[南極日和]制作班

番組プロデューサー 藤野 広子
平成5年芸術学部放送学科卒業

●発行/実業之日本社 価格1,700円(税別)

今年3月までBS朝日にて3年にわたり好評を博してきたドキュメンタリー番組「南極日和」を書籍化。オーロラ、気象、地球物理、隕石、雪氷、地質といった南極観測に従事する研究者はもちろん、昭和基地で食事を作る調理担当や庶務、医療など、隊員を支える人々を含めた22人からのメッセージが綴られている。当時本学大学院に在籍し、第1次越冬隊員に最少で参加した平山善吉名誉教授が基地建設の苦勞を語れば、「教員南極プログラム」に選ばれた本学出身の理科教師・長井秀子さんも南極から衛星中継で授業を行った思い出を語っている。



Ayumi Komai

◆プロフィール

駒井 亜由美(こまいあゆみ)昭和56年千葉県生まれ。小学6年生のとき、テレビ局のアナウンサーに憧れてこの仕事を目指した。全国15局を受験し、見事3局に合格。青森テレビに入社した。いま力を入れているのはナレーション。「10種類以上の声を出して、駒井亜由美とわからないようなナレーションを目指したい!」とのこと。

アナウンスには波があり、自分で納得がいかず落ちこむことも

先輩に INTERVIEW インタビュー



「アナウンサーになる」という思いの強さがただの義務感のように感じ、一度は別の道も考えたという



株式会社青森テレビ
報道制作局放送部
駒井 亜由美さん
平成17年
芸術学部放送学科卒業

報道に携わることの
責任の重さを感じながら
視聴者にとって
一番大切な情報を伝える

月々金曜日、18時15分から放送している「ATVニュースワイド」のキャスターを担当して5年目になります。ニュース番組で大切な情報は、視聴者にとって一番大切な情報を選別し、的確に伝えること。3年前に東日本大震災を経験したことで、その重みを再認識

しました。じつはそれまで、番組終了まで数分間余ったりとすると、何か手持ちの情報の中から話してしまっただけで、残り数分あれば視聴者にとって「今」必要な情報を入れられます。当たり前なことではありますが情報を届ける側の人

間として、その大原則を忘れてはいけないと改めて感じました。この仕事の魅力は、とにかく色々な人に会えること。番組ではほぼ毎日取材に向かい、多くの人にお話をうかがいます。洋菓子職人、工芸作家、リンゴ農家

など職業もバラエティに富んでいて、体験リポートもさせてもらえます。そのような楽しみが仕事になつているのは、幸せなことだと思います。もちろん、取材の難しさもあります。当日の日に中に取材をして夕方ニュースで放送しますから、短時間で人物や仕事の魅力を切り取らないといけません。お話を聞く方と早く打ち解けて、一番伝えたい核心を見つけられるよう心がけています。

最近、他県出身のアナウンサーが数年で辞めて東京でフリーになるか、出身地の放送局に転職するなどの道を選ぶことも少なくありません。私は入社10年目になります。青森県が本当に好きなので、辞めるなんて考えられません。それに、地方局には何でもやらせてもらえるという大きなメリットがあるんです。番組への出演はもちろん、イベントの司会もすれば、女子アナでバンドを組んでCDデビューしたりといった経験もしました。今後も、何にでもチャレンジしたいと思っています。

日本大学校友会 沖縄県支部



平成25年度沖縄県支部総会・懇親会(那覇市・ホテルロイヤルオリオン)



現役の学生も招いてOBと交流

沖縄県支部は、各学部の校友会が活発になる中で昭和34、35年頃、復帰後参議院議員も務められた安里積千代さん(弁護士)らが中心になって発足したようです。沖縄から日本大学へは戦前からたくさん進学しており、安里さんをはじめ琉球電信電話公社総裁だった新里善福さん、沖縄県副知事や沖縄県弁護士会会長を務めた宮里松正さんなど錚々たる顔ぶれで、「法曹の日大」といわれるほど人材がそろっていました。

こうした先輩たちに刺激されて、昭和30年代は多くの人が進学し、校友会活動も活発だったようです。しかし、次第に少なくなっているのが現状で、現在、会員として1100人が登録しています。平成に入ってから、支部活動を盛り上げ

ていこうと毎年8月に総会を開催しています。50人くらいが集まりますが、昨年から若い人の参加を促進するため現役の学生を招いています。OBとの交流を通じて校友会活動に関心を持ってもらうと共に、Uターン就職のサポートもできればと考えています。

沖縄は離島が多く総会に足を運んでいただくのも大変ですが、沖縄の政界、財界、マスコミ、法曹など幅広い分野で先輩たちが活躍してこれたことは大きな誇りであり、それだけに母校愛も強いものがあります。今後は、在学生のご父母にも参加いただき大学説明会などを開き、もっと日本大学の魅力を知っていただくことで支部活動への参加につながればと思っています。



新垣 勲支部長(左から3人目)

昭和45年法学部経営法学科卒業

◆プロフィール
新垣 勲(あらかき・いさお) 昭和22年沖縄県生まれ。本学卒業後、昭和48年より琉球産経株式会社入社、平成11年より同社代表取締役社長、現在に至る。平成19年からは株式会社サンテック代表取締役も務める。長年のPTA活動への貢献に対し平成20年PTA活動振興功労者文部科学大臣表彰を受ける。沖縄県経営者協会理事、沖縄県中小企業家同友会代表理事(現在相談役)などの役職にある。(写真:右から宮里猛副支部長、新垣支部長、大田朝章前支部長、仲宗根正元副支部長)

日本大学校友会 京都支部



平成24年度京都支部総会・懇親会(東華菜館本館)



京都研修

会報を兼ねた総会案内状

京都支部では、支部活動を会員同士の親睦だけにとどまることなく積極的にビジネスにつながる場にしていきたいと考えています。そのため、総会案内を兼ねた年一回発行の会報『More than「絆」』では、支部内のOB・OGのビジネス情報を提供しており、実際に仕事につながった例もあります。今年度は、宇治、綾部、福知山3市の商工会議所副会頭がいずれも校友であることから、3者の座談会を企画しているところですが、こうした交流のベースになる名簿も整え、現在総会案内を送付している会員は1283名、女性が125名となっています。

総会は、毎年10月に開催しています。これは、近畿2府4県の各支部では4支部が6月に開催している関係から、

近隣支部の役員の方にもご来賓として参加いただけるよう秋の開催としています。総会では毎年、懇親会のほか記念講演会を開催しており好評です。とにかく総会に参加いただければ必ず次のステップにつながるものが得られると確信していますが、今後はもっと女性の方に参加いただけるよう工夫していきたいと思っています。

また、2年前から生産工学部建築工学科の学生、院生の京都研修のコーディネート役をさせていただいており、古都京都の伝統的な建築技法などを学んでいただく機会を提供しています。母校から声がかかれば学生の研修から就職の支援まで対応したいと考えています。こうした活動を通じて、より日大人としてのつながりを深めていきたいと思います。



山仲 修矢支部長(左から2人目)

昭和47年理工学部建築学科卒業

◆プロフィール
山仲 修矢(やまなか・のぶや) 昭和24年京都府生まれ。本学卒業後、(株)竹中工務店を経て(株)山仲工業所入社。昭和54年同専務取締役、平成元年代表取締役社長に就任し現在に至る。宇治商工会議所副会頭、財団法人京都府交通安全協会副会長の要職にあるほか平成23年より特定非営利活動法人伏見観光協会理事長を務める。(写真:左から事務局長の伊藤俊宏さん、山仲支部長、幹事・会計の熊倉淳さんと会員でこ子息の熊倉毅一さん)

平成26年度校友会役員総会

校友会役員総会で田中氏を会長に再選

平成26年度の校友会役員総会が7月11日(金)、東京都文京区の東京ドームホテルで開催されました。総会では、はじめに平成25年度の準会員への診療費助成や奨学金、26年度校友子女入試の結果と27年度の入試の概要、25年度の各種運営委員会の活動などが報告されました。その後、25年度収支決算、26年度事業計画と収支予算などが審議され、すべての議案が承認されました。

また、役員改選が行われ、満場一致で田中会長が再選(4選)されました。引き続き、支部・部会への補助費交付式が行われ、閉会となりました。



4選された田中英壽会長

●平成26年度
日本大学校友会事業計画について

- 1 各種運営委員会、各支部総会の開催
- 2 校友会支部・部会への補助金・還付金の給付と検証
- 3 正会員・準会員共通事業
日本大学創立130周年記念事業への支援
[寄付目標額:1億円]
- 4 正会員事業
 - ①正会員の拡充
 - ②全国校友大会の開催 [平成26年11月10日(月)午後6時 東京ドームホテル]
 - ③校友子女入学試験の推進
 - ④スポーツの振興
 - ⑤学祖顕彰事業
 - ⑥海外特別支部との交流促進
 - ⑦各種講演会等の開催(学術・教養講演会ほか)

5 準会員事業

- ①就職活動への支援事業
- ②教職志望者、国家試験受験者への支援活動
- ③特別優待生への奨学金給付
- ④校友会独自の奨学金給付
- ⑤スポーツ優秀者の表彰
- ⑥スポーツ団体・優秀者に対する奨励金の交付
- ⑦全学文化事業(NU祭)の支援
- ⑧診療費の助成

●校友会新規加盟団体
(平成25年度役員総会以降)

- 校門工業クラブ校友会
- 長谷川体育施設校門会
- 日本大学校門水泳会
- 日本大学校門卓球会
- 日本大学弁理士校門会

平成26年度日本大学全国校友大会開催のお知らせ

全国の校友の皆さまにご参加いただき、毎年盛大に催されている全国校友大会が、今年も11月10日(月)に開催されることになりました。この大会は、全国の校友と日本大学の役員・教職員

が年に一度、一堂に会し交流することで“絆”を深め、同窓としての意識を確かめ合い、日本大学のさらなる発展に寄与することを目的としています。昨年は全国から、約850名の校友の皆さまにご参加いただきました。今年はさらに多くの校友の方々にお会いできることを願っております。



開催日:平成26年11月10日(月) 午後6時～
会場:東京ドームホテル 天空(地下1階)
(東京都文京区後楽1-3-61)
会費:10,000円
申込方法:郵便振替による会費振り込みでのお申し込み
(詳細は、校友会事務局からの案内をご覧ください)
◎問い合わせ
日本大学全国校友大会事務局(校友会本部事務局庶務課)
TEL03-5275-8143 FAX03-5275-8330
ホームページ <http://www.nihon-u.ac.jp>

特別優待生に聞く 喜びと校友への感謝の声



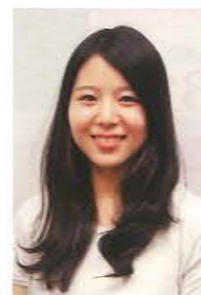
6月20日(金)日本大学校門会館において、平成26年度校友子女入学試験特別優待生証書授与式が行われ、46名の内14名が出席しました



私の父は食品加工の会社を営んでいます。その影響もあり、昔から経営や商品の管理などということに興味を持っていました。そんな中、父が日本大学生産工学部で経営学を学んでいたということを知り、校友子女入学試験を受けることを決意しました。この度は特別優待生として奨学金をいただきましたが、このことを励みにし、感謝を忘れないで、会社の跡取りとして相応しい能力を日本大学で身につけていこうと思います。

石黒 元章さん

生産工学部 マネジメント工学科1年



私は将来、放送局に勤めて海外の文化などを伝える番組を制作する仕事をしたいと考えており、そのため大学では海外の文化や言語を集中的に学べる学部を希望していました。そんな中、文理学部卒業の父から、私が以前から学びたいと考えていた韓国語の授業があり、留学も盛んな国際関係学部を勧められ、校友子女入学試験を受けました。特別優待生に選んでいただいて、とても良いスタートをきることができ、感謝とともにより一層勉学に励もうという気持ちが増しました。私は今、念願の韓国語を学び、良好な大学生活を送っています。これからは夢だった留学を目指し、努力を続けます。

河野 実々子さん

国際関係学部 国際教養学科1年

平成25年4月から会員管理システムの変更に伴い、会員番号の変更を行いました。これまで7桁で管理しておりましたが、8桁に変更しております。正会員の方は、今年度送付された会員証をご確認ください。また、準会員の方ですでに会員証がお手元にある方には、改めて会員証の発行はいたしませんので、7桁の準会員番号の方は、現在付与されている準会員番号の頭に「1」を付けて使用してください。

校友会会員番号の変更について

Information

●インフォメーション

◎本誌への情報提供、

ご意見、お問い合わせは…

この会報は、会員相互のコミュニケーションを深めていただくことを目的に、1人でも多くの校友や在学生の紹介記事を載せています。お店やお宿を営んでいる方、ユニークな先輩や後輩をご存じの方、自分を紹介してほしいなど、自薦他薦は問いませんので、事務局までお知らせください。

◎住所・勤務先が変わったら…

住所、勤務先等に変更がございましたら、必ず事務局までお知らせください。電話、FAX、メールいずれの方法でも結構です。

◎会員証を紛失されたら…

会員証を紛失された際は事務局までご連絡ください。再発行いたします。

◎新規会員を紹介したい…

新規に会員希望の方をご存じの方は、事務局までご連絡ください。資料を送付いたします。

1 封筒、はがきで

〒102-0076
東京都千代田区五番町2-6
日本大学桜門会館
日本大学校友会本部事務局校友課『桜縁』係

2 電話、ファクシミリで

TEL 03-5275-9300
FAX 03-5275-9122

3 電子メールで

E-mail koyu@nihon-u.ac.jp

次号「桜縁」第26号は

平成27年1月下旬に発行予定です!

次号の特集は「ディスカバー・日本酒」をテーマに、その奥深い食文化の魅力を探ります。ぜひご期待ください。さらに内容を充実させて皆さんにお届けします。

皆さんの周りで「桜縁」に掲載できる方がいれば、koyu@nihon-u.ac.jpまでご連絡ください。

また、「桜縁」は会報誌ですので、会員の皆さんの交流の場として活用したいと思っています。たとえば、写真愛好家の皆さんが撮影した写真を掲載するなどです。もし、ご希望がある場合には上記メールアドレスにご連絡ください。

桜縁 No.25 平成26年7月発行

編集・発行 日本大学校友会
〒102-0076 東京都千代田区五番町2-6 日本大学桜門会館
TEL 03-5275-9300 FAX 03-5275-9122

■広報委員会

委員長: 綾部 東洋子
委員: 石 光 井上 関陽雄 内田 章
小橋 恵津 萩原 正芳(写真) 茂木 完仁
齋藤 正道 高橋 浩 三橋 満
石田 秀樹 中村 順一



Present ●桜縁No.25

読者プレゼント

01 長編記録映画
「東京オリンピック」
(市川崑監督)のDVD



抽選で
3名さまに

02 多田羅りかさんプロデュース
「雑穀ブレンド」
3点セット



抽選で
3名さまに

03 芳賀由也さんの著作



抽選で
3名さまに

04 ホテル華の湯
宿泊(1泊2食付)10,000円相当



抽選で
3名さまに

05 ホテル華の湯 オリジナル
「華カレー」
3点セット



抽選で
3名さまに

06 鎌倉ハム村井商会
「熟成ロースハム」



抽選で
5名さまに

07 十亀選手の背番号入り
タオルマフラー、
ストラップ



抽選で
各1名さまに

巻末のアンケートにお答えいただいた方の中から抽選でプレゼントを差し上げます。ご希望の賞品番号をアンケートはがきにご記入のうえ、ご応募ください。なお、当選の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

08 まいりゅうの
トートバックとボールペン



抽選で
3名さまに

09 まいりゅうのポロシャツ
(サイズ:ピンク=5、ブルー=1)



抽選で
2名さまに

10 「山田顕義と
近代日本」展図録



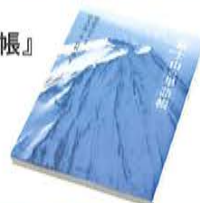
抽選で
3名さまに

11 島山奈保美著
『私が輝く、
パリジェンヌ・
レッスン』



抽選で
3名さまに

12 佐野 充編著
『富士山の単語帳』



抽選で
3名さまに

13 藤野広子制作
『南極日和
極地を「仕事」に
する人たち』



抽選で
3名さまに

編集後記

学祖・山田顕義の生誕地、萩市は町全体が歴史博物館のようなたたずまいで、ちょっと町を散策しただけでも幕末の時代にタイムスリップできます。萩博物館で約2カ月間開催された「山田顕義と近代日本」展、来館する市民の皆さんの歴史への造詣、旺盛な学びへの意欲には驚かされました。

さて、特集「日大スポーツ勇者の記憶」はいかがでしたか?

今回は、日大スポーツを語る上で欠かせない3名の校友の方々に、当時のエピソードを伺いました。お話を伺う中で、目標を達成するためにはどうすればいいのか。己を知り、考え、工夫して、行動する。といった姿勢はスポーツに限らず、あらゆる場面で道を開く「鍵」になるのではないかと感じました。(J)